

令和4年9月8日

1. 出席議員

議長	吉川里己	副議長	松尾初秋
1番	古賀珠理	2番	山崎健
3番	毛利清彦	4番	中山稔
5番	江口康成	6番	吉原新司
7番	朝長勇	8番	豊村貴司
9番	上田雄一	10番	古川盛義
12番	池田大生	13番	石橋敏伸
15番	末藤正幸	17番	山口昌宏
18番	牟田勝浩	19番	杉原豊喜
20番	江原一雄		

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	川久保和幸
次長	山口美矢子
議事係長	奥幹久
議事係員	木寺裕一朗
総務係員	蒲地理子

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	松	尾	文	雄
総	務	部	山	崎	正	和
総	務	部	諸	岡	利	幸
企	画	部	庭	木		淳
営	業	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	黒	尾	聖	洋
福	祉	部	松	尾		徹
福	祉	部	後	藤	英	明
こ	ど	も	秋	月	義	則
こ	ど	も	諸	岡	智	恵
ま	ち	づ	野	口	和	信
環	境	部	山	口	智	幸
総	務	課	江	上	新	治
企	画	政	弦	卷	一	寿
財	政	課	藤	井	喜	友

議 事 日 程 第 2 号

9月8日（木）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

令和4年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	18 牟 田 勝 浩	1. 交通行政 2. 経済対策 3. 民生について 4. 周辺部対策について
2	3 毛 利 清 彦	1. 武雄市の人口について 1) 武雄市の人口増減について 2) お結び課の現状 3) 武雄市の魅力発信について 2. 西九州新幹線について 1) トップセールスについて 2) 地域産業の活性化について 3. 地域包括ケアシステム拠点整備事業について 1) 現状について
3	8 豊 村 貴 司	1. 治水対策について 2. 新型コロナウイルス感染症対策について 3. まちづくり・地方創生臨時交付金の活用について
4	12 池 田 大 生	1. まちづくりの全体像について（市政、教育） 2. 教育について 1) 学校トイレの洋式化 3. 市政について 1) 新幹線開業前・後のまちづくり 2) 公衆トイレ、観光トイレ、駅のトイレ 3) 内水被害対策 4) 新型コロナウイルス感染症対応について

開 議 9 時

○議長（吉川里己君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づき市政事務に対する一般質問を始めます。

一般質問は10名の議員から34項目について通告がなされております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に18番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました。

まず最初に、私の同郷で同僚議員である松尾陽輔議員さん、急逝なさいました。心より残念に思いますし、心より御冥福をお祈りいたします。

松尾陽輔議員さんとは、最後に会ったのは若木町眉山キャンプ場開きでした。亡くなるちょうど2週間前。そのときには普通にお元気に話して、キャンプ場開きが始まる前に外で話し、キャンプ場開きのときはきちんと挨拶もされ、終わった後もキャンプ場のことに関して話して、そしてお別れして、2週間後、こういうお別れになりました。本当に残念に思います。心より御冥福をお祈りいたします。

さて、その眉山キャンプ場も後で質問項目の中に入れております。

今日は9月8日。9月8日は、ちょうど若木バイパスの開通の日でした。この日の、——何年前だったでしたっけ——日に若木バイパスが開通し、国道498号線を使う交通体系が大きく前進いたしました。また、その隣にある瓦礫の山を、いろんな各市の自治体の職員さんが瓦礫の撤去に来ていただいた日でもありました。

この9月8日、いろんな思いを考えながら質問をさせていただきます。

では、まず最初に、交通行政について、1番目。

2つ画像を載せていますけれども、6月議会で先般お伺いしました。信号機に、——これ中山議員さんも山内町のほうで同じように質問されました。これは私もしましたし、中山議員さんも質問をされましたということかもしれませんけれども、議会が終わった後で、今まで以上に、普通以上に、この件について多くの人から、ひょっとすると中山議員さんも、「あいよかね」って、「あいしてもらわんざいかんね」って多くの人から言われたかもしれません。私自身も、ここにほんなごてつけてくるっぎ助かるよというのを、今までの質問の後以上に、本当に多くの方々から、これ早うしてくれと。

信号が変わる、こっち側の信号が変わる。でも、向こうは青で、来るかもしれないということで、なかなかですね、何台かはロスしてます、朝の渋滞。夕方の渋滞というのは、そんなにないかもしれませんが、朝の通勤時間帯では、本当は2回待てばいいのが、3回、

4回となってしまいます。これは本当に、朝通勤されている方においては、ぜひ必要だということと多くの人たちから言われました。

そういうことで、この信号体系、どのように進んでいるのか。

前回の答弁では、「検討し、要望をしたいと思います」ということなんですけども、まず最初に、その質問から行いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。今回、御指摘の交差点につきましては、現在、現場を調査確認中であり、関係する地元と協力し、武雄警察署に矢印信号の設置を要望していきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

調査し、地元と協議する。本当に早くやっていただきたい。

それともう一つ、武雄市にはいろんな交通何々会議とつく名前の会議がいっぱいあります。そういう中でも、ぜひ取り上げていって、この朝の交通渋滞。朝っていうのは多分、特にいららするときがあると思うんですね。行けばいいのにと、向こうは赤なのに、こっちはなぜ行かないと。それは行かないときありますよね。前から来ていて、こっちは赤って分からないのに右折はできないですから。

武雄市には、交通という名のつく会議がいっぱいあると思います。交通安全協会しかり。ぜひ、そこで早めに取り上げていただいて、地元以外の方が結構使われていますんで、そういうところをやっていただきたい。

特に、前回、質問のときでも出しました。今からちょっと出すところが、一番質問の後に言われたところです。

山内町は、中山議員さんがちゃんと出されましたんで、山内町のほうは私、あまり言われてなかったんですね。

まず最初に、朝日町川上の交差点ですね。右折のレーンもちゃんとあるところですが、これは、こっち側来るときが赤になっていても、右折するとき赤になったのが分からないから、ここで待ってるんですね。今ちょうど車が待っている状態と同じ。それが何台か行かれない。

次、これは小楠の交差点。これ繰り返しになりますけども、川良という武雄市で一番多い世帯数を抱えているところ、小楠という多い世帯。

そして、各町から赤穂山トンネル、山内の川上方面、いろんなところから集中するところですね。右折ができなくて、右折レーンからはみ出して直進レーンまで進めない。そういう

事態も多々、多々あっております。

ぜひこういうところ、——これ、すみません、私に言われたところですね。質問のときにも言いまして、質問後に言われた場所の代表的3つ。

3つ目は、永島の交差点。ここから行けばハイツさんとか、森のリゾートさん、ゆめタウンのほう、白岩体育館のほうですね。ここのところも右折レーンはちゃんとあります。でも、信号が赤に変わったというの、反対側が赤に変わったというのは分からない。だから、ここで待たなきゃいけない。これは武雄市に流入してくるほう、右折する人にとっては、本当にこういうのをつけていただきたい、つけてくれという要望を前も受けましたし、この質問が終わってからも見たよって、聞いたよ、こういうところを早く何とかしてほしいと。特に朝はひどいからということでは言われました。今、代表的な3つ。

ぜひ、先ほど言いましたまちづくり部、そして、交通という名のつく交通安全協会をはじめとする会議でも取り上げて、要望を進めていただければと思います。ぜひよろしく願いいたします。

では、続き、——ごめんなさい、もういっちょあった。これちょっと戻しますね。

ドライブレコーダー、これも2年半前に、ドライブレコーダーの設置を市役所の全車種につけるべきじゃないかと。これは、一つは事故が起きたときの検証にもなるっていうのもありますけども、防犯なんですね。

これ、さっき9月8日という言葉を使いましたけども、5月8日、——5年前だったかな、3年前か。——3年前の5月8日は大津の保育園の児童の列に車が突っ込んで全国的にニュースになりました。そういうのも、ドラレコがついていたらきちんと検証ができる。ひょっとすると、池袋暴走事件と言われているあれもドラレコがあったら分かった。早めに分かるかもしれない。

例えば全車つける。武雄市内にこの車がうろうろしている、仕事でうろうろしている。何か事件があったときに、このドライブレコーダーを検証して事件を解決する。万が一、例えば誘拐、子供たちに何かあったときも、その前後、その近くを通っているのにひょっとするとその解決の糸口の画像が映っているかもしれない。ドライブレコーダーは本当にこういう形で役に立ちますし。

もう一つ、これは、前、古川盛義議員さんも指摘されました。多分、山口昌宏議員さんも指摘されたと思うんですけども、約300人ぐらいの市の職員さんにとって、あまりにも事故が多過ぎる。同じ規模の企業に比べたら事故が多過ぎるということで、指摘もありました。私もそうだと思いますし、少なからずの議員もそう思っていると思います。

そういう中で、このドラレコをつけたら、きちんとまたそれも検証できるし、きちんと自分の身のほうの安全もできると思います。ぜひこのドラレコ、全車設置のほうを目指していただきたい。

今、少なからずつけているとも聞きましたけれども、再度、ここで目標をどうされるのかというのを伺います。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

おはようございます。まず、議員おっしゃったように、職員の事故等については、多々発生しているという状況がございます。そこについては、事故がないような指導を今後とも行っていきたくと思います。申し訳ありません。

ドライブレコーダーの件につきましては、事件、事故等の早期解決、また、職員の運転マナーの向上、事故発生時の原因究明、この辺の観点から、令和元年度よりドライブレコーダーの設置に取り組んでおります。

既存車両の取付けにつきましては、年次計画を立てて計画的、また、車両の入替え等につきましては、そのタイミングで設置をしているというような状況であります。

なお、令和4年度末までで、約60台に設置を予定というような状況になっております。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

順調に進んでいるというふうに受け取りますけれども、市が持っている車両200台だったですかね。多分200台ぐらい、60台、3分の1ない、弱ですけども、特に外を回られる建設課、農林課、今、多分、公民館とか学校とかはよくついているのを見かけます。ぜひ進めていっていただきたいと思います。

では、次に移ります。

次は経済対策。

経済対策においては、コロナの第7波1,000人、2,000人近く、今でも3桁。武雄市の何人というのは発表されていませんけれども、出ています。

この第7波が今までと違うのは、経済的に違うのは、今まではお店を休んだり、お店の時短をしたりすると給付金が出ていた。今回は、お客は来ないのに、店は開けとかなきゃいけない。店は開けとかなきゃいけない、経費はかかる、でも、そういうふうな給付金も出ない。

今回の武雄市の予算、——事前審査にならないような形で言いますけども、——そういうふうな経済対策というのを、ケの字も書いていない。そういうのに対して、もっと武雄市はやるべきじゃないかと。武雄市は特に、少なからずの持続化給付金とかはやっていますけども、災害、コロナ、災害、コロナと、武雄市は他の地区に比べたら多いです。ダブルトリプルパンチ。そういう中で、経済対策というのを触れていない。

例えばこれ、山崎議員さんが指摘くれたんですけども、例えば観光協会とか、いろんなと

ころのホームページに、もう潰れている店がいっぱい載っていますよという指摘を個人的に受けました。山崎議員さん、よく見てられると思います。

そういうふうな状況ですよ。もう店を閉める。この次、乗り切れないかもしれない、新幹線開業しても、もう閉めなきゃいけないかもしれない。店は開けているのに、お客は来ない。そういう状況を、まず把握されているのか。そして、この経済対策、何らかないのか。

以上、お伺いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。市内の事業者の皆様には、これまでコロナ禍で様々な工夫をしながら何とか事業を続けていこうということで、懸命に取り組んでおられると。ただ、やはり厳しいという声は私も承知をしております。実際、それも聞いております。

これまで武雄市では、国や県の事業者支援、その間のつなぎであるとか、そういう意味で、過去4回、給付金を支給してきました。

円安がますます今後続いていくんじゃないかというふうにも言われています。今後さらに経済状況が悪化した場合には、今後、国からも、さらなるコロナの交付金が追加で交付をされるというふうにも聞いていますので、それをしっかりと活用して、間髪を入れずに経済支援ができるように、今から準備を進めていきたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

もう今の状態を言えば、2年半前にお金を借りて、もう支払いが始まっている。追加の借換えをするか、それとも店を閉めるか、そういう選択の時期に来ている。店を閉めようと思っているときに何の支援もなかったら、やっぱり閉めちゃいますよね。

新幹線開業、目の前。ぜひ、それが継続するように、先ほど市長が言われたように、間髪を入れずにやっていただきたいと思います。ありがとうございます。

では、続きまして、武雄市とJRとの連携。——ごめんなさい、ちょっと、さっきのことなんですけども、作ってたんで。

先ほどコロナ臨時交付金という話が出ましたけども、これは武雄市のホームページからの抜粋ですけども、市の取組は、影響を受けている地域経済の支援と出ています。市長が今言われたとおりです。趣旨は市長がしっかり把握されてやっていると思いますので、ほか執行部の面々もそういうところにきちんと目をやり、間髪を入れずというのをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

では、J Rと武雄市。

開業します。嬉野市は、——1,000 平米と書いていますけど、これ間違いです。1 万平米。1 万平米のホテルを嬉野市は J R が経営してホテルを建てられます。これは、開業は多分、新幹線の開業に間に合わないんで、来年ずれ込むということを知っていますけれども、嬉野市は、こういう。

この話も、この 1 年半以上前から進められていた話、開業がもう分かっているから。早め早めに嬉野市さんは動き、J R もボールを受け取り、ボールを投げ返し、キャッチボールの末、できました。ごめんなさい、これ 1 万平米。大きな広さです。センチュリーホテルとどうでしょうか。

鹿島市、茜さす、宿泊施設。これ行った方もいらっしゃいますし、執行部で行かれた方も、1 泊 3 万円とか 4 万円のところを、ここだけじゃなくて何か所か、J R が経営されています。じゃあ、武雄はなん、武雄はどがん進めようかと。

J R、県が武雄に対してどのような、こういう協力関係を結んでいけるのか。武雄と J R はどういう、——こうやってほかはね、鹿島市に関しても、今まで十何台の特別仕様列車を話し合っ引張ってきています。

武雄は何しているの。鹿島の観光協会さん、会長さん、元市会議員です。昔からの仲間です。話を聞きます。よく動いていらっしゃる、やっぱりそういうことで。市も動いている。

そういう中で、武雄市は J R とどのようなキャッチボール、そして、こういうふうなイベントを持ってきているのか。ぱっと見たところ、武雄市はあまりこう、嬉野市とに比べて、——嬉野市もっとほかもやっていますよね——そういうのがなかなか目につかない。

ぜひ、そこそこをお教えいただきたいと思います。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

おはようございます。J R 九州さんとの連携でございますが、まず、第 1 番目に、J R 九州の職員について、現在、市のほうに派遣をさせていただいております。それと、J R 九州様とは毎月、情報交換を行っており、開業に向けての準備や旅行商品の造成などを実施しております。

その結果といたしまして、武雄温泉駅開業後の弁当や山内町飲食店トラットリヤのスイーツなどを、9 月 23 日から運行される観光列車ふたつ星 4047 で採用をいただいております。

また、10 月から始まります観光列車 36 ぷらす 3 では、周辺観光や観光交流センター等の利用促進のために、武雄温泉駅で約 25 分程度の停車を実施していただいております。

また、J R が発行する時刻表や情報など、武雄市の情報を積極的に配信していただいているというところで、J R との連携については以上でございます。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

観光列車を止めるということで、じゃあ、嬉野市は何も止めないんですか。嬉野市もやりますよね。だから、それには後れを取っているんじゃないかと。

今からでも遅くないです。もっと動いて、JRと連携していろんなことをやっていただきたい。

直近で言えば、例えば開業の日、花火でも上げんと、そんぐらいJRさん持ってよって。JRさん、力入れていますよ。逆に私もJRの開発局の人と会うと、武雄、何かないですかと私に聞くんですよ。それだけキャッチボールがされていないというか、観光協会にしても市にしても。ぜひ、これからもっとまめにやっていっていただきたいと思います。

何か、言いたそうですけども、言いますか。よかですか。

ぜひ、こういうのを進めていっていただきたい。

今からでも遅くない。センチュリーホテルを紹介したり、いろんなどこ紹介したりできます。逆に聞かれましたもん。ぜひやっていただきたい。これ何でわざと1万平米って書いたというか、それ分かりますよね。武雄のホテルにしてもそうですし、これ以下のホテルって厳しいところもあります。

さっき、一番最初、経済対策で言いました、借換えしようか、やめようかというところがあると思います。

これ全国の統計データですけれども、全国の統計データでコロナ後に借換えが一番多い業種はどこかということで、ぶっちぎりの旅館、ホテルです。ほかの2位に倍以上の差をつけて借入れのトップになっております。それを返していかなきゃいけない、借らなきゃいけない。

ぜひ、これからも連携を進めていっていただきたい。

次、何やったかな。次、これはいいです。ちょっと戻しますね。

昨日、知事が一般質問の答弁で、新幹線に関して、「佐賀駅を前提としないルートで考えてみます」という答弁がありました。少し前進したのかなとは思いますが、佐賀駅を通らないルートって何があるんだろう。大和ルート、高速道路沿い。そして、もう一つ、ほかには、例えば脊振山、直接穴掘って多久に出す。そういうことも考えられないこともないでしょう。

そして、今、少なからず言われている空港ルート。私は、空港ルートというのは反対であります。JR九州も、BバイCにおいては最も効率が悪いし、投資額も倍以上になるということでは言われております。

ただ、知事がどういうことで佐賀駅にこだわらずというのを言われたというのは、私は分

かりません、真意は分かりません。

ただ、JR九州の青柳社長、今の会長は、佐賀駅以外には考えていない。新幹線の部長も佐賀駅以外には考えていない。BバイCが一番高いからですということ言われています。

そういう中で、今後、知事がどのように動くかもしれませんけども、私自身は、新幹線の空港ルートには反対なんですけれども、唯一賛成してもいいかなという方式があります。それも、武雄市とJRの連携の一つになると思うんですけれども。

大体、空港ルートは私、反対ですよ。でも、唯一賛成してもいいかなというのが、これです。

空港までJRのルートに決定したら、高架下というのは有明海まで行くんですよ、有明海の近くまで。この下を利用して、これを全部排水管にしてそのまま、どうせここ使わないんだから、高架の下。佐賀空港ルートになった場合の話ですよ。この下を利用して、六角川、どうせクロスするから。このところから、この下を利用すればいいと。唯一、私が賛成できる方法ですね。

以上に関して、市長、いかが思いますか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、新幹線のフル規格については、武雄だけの立場で言うと、とにかくどこでもいいから早くつないでくれというのが、多分一番大事なのかなと思います。

知事もどういう考えか、私も真意は分かりませんが、私は空港ルートでも、個人的には空港ルートでも、これは夢が描きやすいのかなと。

ただ、おっしゃるとおり、JRは私も社長、専務、会いましたけれども、JRとしては当然、佐賀駅ルートを考えておられると明言されているとおりでと思っています。

この新幹線を考えたときに、新幹線だけではなくて、そこに、いろいろな付随するものを、せっかくだからやっぱり合わせて、その効果を高めていくと。こういう発想は、やっぱり私はあってしかるべきかなというふうに思っています。

こういったアイデアを、ぜひこれは、何か河川事務所とか、そういったところにも、私からも話してみたいと思います。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

当初に言いました武雄市とJRとの連携、もっと強く進めていく。お願いしたい。

そしてルート、いろんな面でもJRと協力。

そして、これはちょっと昔からこうなればいいなと思ってた案を私が言っただけで、やっ

ぱりこういうのも一つの、地域の災害を少なくする、利用するという部分の一つで、一つの構想の端っこと端っこぐらいなんですけども、こういう考え方もあるよということで御紹介させていただきました。

続きまして、次の月曜日だったですかね、火曜日、その前か。サガテレビで、こういうのが出ました。はがくれ時評というところの中で、「西九州新幹線の開業日は葬式の日」と。「葬式の日」ですよ。こがんことが言われてよかとか。マスコミが言っているのか。それも地元
のサガテレビ。

「葬式」という言葉は、——その前に、「村八分」という言葉は分かりますよ。これは禁止用語じゃないと思うんですけども。「村八分」。のけものにする。何かその人が起こして、村からのけものにされる。でも、八分の残りの二分は、これはもう皆さん御案内のとおりで、知ってらっしゃると思いますけども、八分はもう関係ない、無視しますよと。残りの二分は、一つは火事。火事ときは手伝いますよ。災害ですね。手伝います。残りの一分は何かと。残りの一分は、不幸があったときには手伝いますよ。お葬式ときは手伝いますよと。村八分という言葉の残りの二分は、葬式ときの残りの一分なんですよ。

そういうふうに昔から日本の伝統で、そういう人でも葬式の日は協力しようというような伝統の中、開業日の前に、開業日は葬式の日。

例えばアサヒビールさんも新幹線の開業で特別な缶ビールも作られています。いろんな祝典があります。開業祝典、記念イベント、記念コンサート。そういう中でこの放送を、そして、公共の電波をレンタルで借りている、放送法に引っかかる。そのサガテレビの中の解説主幹が「葬式」という言葉を使っていいのか、甚だ疑問に思います。

これ、百歩譲れば葬式じゃなくて、佐賀県減退の日とか、財政困難が始まった日とか、そういうのなら分かりますよ。この「葬式」という言葉は適切なのか。私は見たときに衝撃を受けました。

市はどのように対応されるでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私もこの記事、ネットで見たんですけども、愕然としました。

武雄市だけではなくて、新幹線開業、新幹線ができるから、これはやはり県全体でお祝いしよう。そして、新幹線の武雄、嬉野だけではなくて、この効果を全県に広げていこうということで、そういう思いでやってきましたし、県もそういう思いでされてきていると思います。そういうところに水を差す、まさに記事であり、発言だというふうに思います。

特に、長崎本線のルートについて、鹿島とか太良を念頭に置いて書かれているんだと思うんですけども、私も鹿島の松尾市長とはよく話しているんですけども、確かに便数は少

なくなるけれども、でも、もう一回これを一つ大きなまちのスタートとして、いろんなところと連携をし、地域の磨き上げをして、そして、鹿島らしいまちづくりをしていこうということで、すごく頑張っておられます。

そういうのを知っているからこそ、私は、これは非常に残念であるというふうに思いますので、ここについては、私たちのほうからも、サガテレビに対しても、ここは抗議をしたいと思いますと思っております。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長、そうやっておっしゃっていただくのは、本当、心強い限りですけれども、これは武雄だけではなく、嬉野、大村、諫早、長崎県全体もそうだと思います。そういうところとも、ぜひ相談しながらやっていただければと思います。

本当に葬式は失礼と、私は、この表現は思います。

では、続きまして、次の質問、民生について。

民生について質問したいと思います。

まず最初に、民生委員さん、ちょうど切替え時期です。交代時期ですね。

今言われている、平成 15 年から計画が始まった、政府で始まり、今、下に下りてきている地域包括ケア。この仕事内容の大きな違いは何でしょうか。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

おはようございます。まず、民生委員の方の活動内容といたしましては、高齢者や障がい者など支援を必要とする方に対し、訪問、見守りなど個々に寄り添った支援を行っていただいております。

地域包括ケアにおきましては、話合いの場では、民生委員としての経験から具体的な情報や御意見等をいただいております。活動の場ではごみ出しや庭掃除など、地域の方と一緒に支え合い活動を行っていただいております。

活動内容としては、民生委員活動と重複するものが大きいと認識をいたしております。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

地域包括ケアはちょっと置いておいて、民生委員さんというところにちょっと力を入れて、力を入れてというか、いろんな市民の人から言われたこと、そして、私自身も思っていること。

令和元年、水害が起きました。そういうときは、市の職員さんも大変だった、消防団も大変だった。いろんな方々が、被災を受けた方々も本当大変。民生委員さんも大変だったわけですね。片づけが終わった後もケアで回らなきゃいけない。そういう中で、民生委員さん、翌年はコロナが始まった。コロナで、また独居老人、いろんなどを回らなきゃいけない。昨年の災害、また一緒です。

民生委員さん、報酬約12万何百円、月1万100円か200円ぐらいですね。そういう中で、先ほど言いました、1か月で20日、25日、30日出ても1万円。ガソリン代も出ない。

言い方悪いですけども、私いつもここで消防団を応援しているんですけど、消防団、おかげさまで、出動日数に対して手当は出ます。職員さんも大変だったでしょう。朝早くから夜遅くまで、もしくは徹夜で市役所にいなきゃいけない。でも、手当は出ます。

民生委員さん、ガソリン代も出ない、月1万円。

確かに、——令和何年だっけ——私、議会で同じような質問しました。そのとき、災害前だったんですね、そういうことがないとき。あまりにも少な過ぎるんじゃないかと。

それで、当時は県内10市において、多分、報酬の順位が6番目かぐらいだったんですね、同率6番目ぐらいだったんですよ。それ上げてもらい、今、3位になっていますかね。3位になっても1万200円、月——中山議員さんも民生委員されていたんですよ。——それで本当にいいのかと。

今、ちょうど切替え時期と言いました。やる人少ないですよ。

私、町の推薦準備委員会の委員長もしたことがあります、準備委員会。市の推薦準備委員長もしたことがあります。いろいろ聞きました。本当に大変だと。なかなか若い人、若い人っていても、仕事しながらっていうのはなかなか難しいですから、60歳以上、引退した人とかなんとか難しい。

そういう人の御苦勞を迎える、そして、この苦勞が十分把握されているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部理事

○後藤福祉部理事〔登壇〕

おはようございます。民生委員につきましては、活動回数の増加や活動内容の多様化等により、負担が増えているというふうに認識しております。

また、担い手不足により、候補者の推薦に苦慮されている地域が多いというふうにも認識しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当、大変だと思います。

民生委員さんは、市からではなく、直接、厚生労働大臣からの委嘱を受けます。

そういう中で、先ほど消防団との比較をしましたけれども、消防団、例えば交付金は、大体1回出動当たり7,500円。実際、計算するともっと安いんですけども、その中の1,800円を出動手当として出している。

民生委員さんは逆なんです。民生委員さんは、今さっき1万円と言いましたけれども、交付税自体は1万円も来てないんですね。それに市の金を乗っけて、1万円にしてやっていると。毎日出ても1万円、どこまで走っても1万円、いろんな活動があっても1万円。本当、おんぶにだっこをしている状態。

かといって、市は、その報酬を今大体12万円で一律10市、12万円とか10万円、9万円の市もありますけれども、一律になっているところで市だけ、武雄市だけぼんと上げるわけにいかない。

じゃあ、どうすれば民生委員さんの御苦労に報いられる、次の民生委員さんも、これだったらやってもいいなというふうなことをできるのかと。

次、何だったかな。ごめんなさい、ちょっと次の画像、見ていいですか。ごめんなさいね。

地域包括ケアと、――民生委員さんの仕事は先ほどお伺いしました。地域包括ケアというのは400万円、令和6年度までに来ますよね。400万円やったかな、300万円やったですか。ちょっと忘れまして。令和6年、今年までか。4年度までです。400万円。この後、計画を立てていきます。地域包括ケアで、どのように運営していくのか。町別によっても違いますけど。

そういうときに、地域包括ケアに来るお金、介護保険交付金を多分使われると思いますけども、その介護保険交付金のその分配を民生委員さんの介護包括ケアという名目で、民生委員さんの活動費、ガソリン代、費用弁償、そういうのを包括ケアの中でやれば、民生委員さんの手出しも少なくなるんじゃないでしょうか。

これから計画を立てられると思います。民生委員さんの報酬をそのまま上げるのは難しい。でも、包括ケアという名目でやるときに、民生委員さんと仕事がほぼ一緒ならば、包括ケアのほうでそういったのを出せる。

こういうことは考えられないかお伺いします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

議員さんの御提案であります活動支援につきましては、民生委員さんをはじめ、地域や個々の活動に応じた支援等について前向きに検討していきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

繰り返しになりますけども、例えばこの数年間で、区長さん、連絡員さんも報酬が上がりました。さらに、公民館長さんにしろ、上がっております。

民生委員だけが変わらない。民生委員さんも、やっぱり出てきた回数でやる。繰り返しになりますけども、直接上げられないなら、別の形で、地域包括ケアという形の交付金で支払っていただく。

ぜひ、先ほどおっしゃった、「前向き」という言葉を言われました。そういうのをに入れていただけて、民生委員さんたちの御苦勞に報いる。そして、さらに、次に続ける人が、これならばというような形でやっていただければと思います。

では、次の質問、次の要望です。

民生委員さん、先ほど言いました、国の直轄です。憲法 25 条。憲法 25 条で、国の全ての国民は健康でうんたらかんたら。国は、増進に努めなければならない。大体は、これは国の責任なんですね。だから、そういう民生委員さんは、厚生労働大臣からの委嘱になります。

本来ならば、国からの援助が、費用弁償、ガソリン代、活動費、なければおかしいのに、その半分も来てない。ややもすれば、3分の1しか交付金が自治体には来ていないと。これはやっぱりおかしい。

武雄市は、九州市長会、佐賀の市長会において、要望を出されると思いますけれども、小松市長におかれては、もっと国のほうに、厚生労働省、ひょっとすると国会議員、佐賀選出の国会議員さんにも、厚生労働省、強い方がいらっしゃるかもしれない、影響があるかもしれない。例えば与党の中の厚生労働部会、民生委員部会の人でも影響が強い方がいるかもしれない。ぜひ動かしてやっていただきたいと思います。

もしよければ、市長、議長ともタッグを組んで、こういうのを要望活動とかやっていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

この憲法 25 条、生存権ですけれども、ここはおっしゃるとおりで、民生委員さんについても、この 25 条から、これを受けて、例えば「老人福祉法」とか、ほかにも様々な法律ができていて、その中でも、民生委員さんはそれぞれの事務に協力をするというふうにあります。厚生労働大臣の委嘱も受けておりますので、やっぱりここはしっかりと国が保障をすべきだというふうに思っています。

九州市長会から全国市長会を通じて、国には要望を今年もしております。先日は知事要望でも、知事からもしっかりと働きかけるように、佐賀県市長会でも要望をしました。

ここについては、あらゆる機会を捉えて、国に積極的に要望し、提言をしていきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

この条文で国が唯一守っているのは、生活保護の保障の交付金のみであります。地域包括ケアという名目で、本来、国がしなきゃいけないのを地方自治体に丸投げしている。

ですから、民生委員さんの仕事と重複するならば、その分も国からきちんともらえるように、我々、地方自治、地方議会、そして、執行部も働きかけを一緒になってやっていきたいと思えます。ぜひよろしくお願ひします。

では、次の質問であります。

周辺部対策。

周辺部対策は今までいっぱい言ってきました。その中で今回取り上げるのは、市長が常々おっしゃる、そして、市長が最初に立候補したときに使われた言葉、あるものを生かしていきたいと思えます。そして、選挙のたび、そして、いろんなどころの講演のたびに、あるものを生かすという言葉が市長はよくよく使われております。私も共感しております。

ですから、今までは、例えば若木町でいうと永野の風穴、地域にあるものを生かす。川古の大楠。——すみません、若木のことばかり言って申し訳ないんですけども、——やっぱりそういうふうなのでお願いしてまいりました。

今回は、先ほどちょっと壇上で言いました眉山キャンプ場。眉山キャンプ場、本当、いいところだと思います。キャンプ場開き、先ほどちょっと壇上で言いました。最後に松尾陽輔議員さんとお話ししたのもキャンプ場開き。この前、キャンプ場開きがありました。

220 度のパノラマ。360 度とか言いません、220 度のパノラマ。こうやって雲海も見えます。キャンプをこうやってできるようになりました。バンガローもきちんと設置されております。

あるものを生かすなんですけれども、供用は7月、8月、9月なんです。3か月なんです。その間は寝ているんですよ。生かされていない。そういうところも、ちょっと話してたんです。

今、グランピングやらキャンプのブーム。そして、眉山キャンプ場、キャンプで検索したら、ここに泊りに来た人がブログとかなんとかに書いていて、物すごく褒めてらっしゃる。いいと。夜空がきれい。これは本当に前から言われていることです。夜空がきれい。

そして、今、横のほうにちょっと、——これ私が撮った写真なんですけれども、——このキャンプ場のそばにある龍王宮、これは若木の水の源だと言われています。龍王宮があり、そのイチョウの木。イチョウの木の高さは 28.5 メートル。日本で一番高いイチョウの木は 31 メートル。それに負けず劣らず、このようなちょっとした谷の中に龍王宮があって、イチ

ヨウの木がある。これは11月です。この供用外の日です。

7月、8月、9月というのはもちろん暑い。それ以外の春の季節、秋の季節、キャンプ多い。そういうのをなぜ利用できないのか。

もちろん、大前提には、地元、菅牟田区の人たちの、これ以上の労力を増やさないというのは大前提にあります。

じゃあ、この3か月だけその地区に今までと同様の保全をお願いし、同額並みの、同額以上の保全料をお支払いし、残りを市で直接、残りというか、もう通年、——近隣のキャンプ場も365日ですよ、教育キャンプ場ですけれども。——そういうのを考えられないのか。

例えば乳待坊キャンプ場ですかね、あそこは前回、建物のテントのほうを新しくして、サウナも3基設置しましたよね。置けるようにしました。そういう感じで、この眉山キャンプ場をもっと生かして通年にし、もう市が直接管理するような形で資本投下して、整備してやってくれることを話しておりました。ぜひ実現したい。

大楠公園も数々質問してきました。永野の風穴も質問してきました。キャンプ場を質問するのは多分、私、長い議員の中でも2回目か3回目ぐらいですね。

ぜひ、通年及び市の整備、サウナでも一番いいのは露天風呂みたいなのがいいんですけども、そういうのができないかお伺いします。

○議長（吉川里己君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。眉山キャンプ場は、青少年の健全育成及び市民の健康の増進を図るため設置をしております。地元の菅牟田区の御協力を得て管理運営をしております。先ほど議員がおっしゃったとおりでございます。

通年開設につきましては、キャンプ場の水道は山水を利用しており、天候による水量確保の問題や冬場の水道管凍結の問題があり、また、菅牟田区の負担を増やさずに開設期間が延長できるかどうか、眉山キャンプ場は教育キャンプ場としておりますけれども、教育キャンプ場としての位置づけを含めて、調査検討していきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今、教育委員会から、教育キャンプ場というところの視点から話ありましたけれども、私、もうちょっと大きい話をしたいんですけれども、そもそもじゃあ、これからも教育キャンプ場であり続けるべき理由って何なんだろうかなと、先日も山開き式に行ったとき、そう思いました。

昔はやはり、そういう理由があったのかもしれない。

例えば公民館が社会教育の場だけではなくて、コミュニティーの場に広がっていったように、教育キャンプ場も、これからやはり今の時代が変わっていったので、やっぱりそこに合わせて変わっていくべきなんじゃないかというふうに私自身は思います。

やはり本当にすばらしい場所であるというのは、行くたびに私も感じますので、ここをやっぴりもっと生かし切るといところが武雄の、そして、地域の活性化にもつながってくるというふうに思います。

通年利用など、今、様々な御提案をいただきました。やはりそこをしっかりと踏まえて、今後、このさらなる魅力化と活性化をぜひ図っていきたく。ここは教育委員会ともしっかりと話をして、活性化につなげていきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長、ありがとうございます。——に比べて、教育委員会の答弁の情けないこと。何ですか、今の答弁は。

水が凍るかもしれない。消防団の、例えば貯水槽、ああいうのを、5トンぐらいのやつを安く造ればいいじゃないですか。できない理由ばかりつらつら述べて。

ひょっとしてこれだと、私一番バッターですけども、ほかの議員さんの答弁でも、そういうふうなできない理由の列挙なんてしているんじゃないでしょうね。

365 日、菅牟田区の負担なしでって、ちゃんと前もって言っていたじゃないですか、通告でも。

市長はちゃんと言っていただけでしたよ。やっぴりね、あるものを生かすですよ。きちんと資本を投下するときは投下する。

そして、あるものを生かすためにはどうすればいいか、そういうのを考えていっていただきたい。

教育長、いかがですか。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、今、3か月だけの開設期間でございますけれども、それ以外の時期も、たくさんすばらしい自然があることは認識しております。

今、市長からの発言もありましたとおり、前向きに検討して、いろんな条件をクリアすることがありますので、その辺を一つずつ解決しながら、市民の皆様、あるいは市民以外の方もたくさん利用していただいておりますので、そういった皆様が自然を共有できるような場所にできるように検討していきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

検討にはいろいろありますよね。その場逃れの検討、前向き検討、やることを前提の検討。

さっきの答弁を聞いたら、もう情けない。やらない理由を列挙しているような感じで、わざと自分で障がいをつくっているんじゃないか。

教育委員会がそれでいいんですか。違いますよね。よろしくお願いします。

落ち着きました。

では、先ほど市長の答弁、そして、教育長の答弁を受けて、ぜひ早急に進めていただけたかと思います。よろしくお願いします。よかですか。よろしくお願いします。

続きまして、地域の保全の中。地域の保全で一番、今困っている、ここ数年で一番大変なのが、蔦、カズラ、葛。何て言えばいいんですかね。これが……（「タイバカズラ」と呼ぶ者あり）タイガカズラっちゅうとですか。（「タイバ」と呼ぶ者あり）タイバ。タイバカズラという……（発言する者あり）すみません。

これがね、ここ数年、もう急激に出てる。これはね、ここで切ってみると切れないんですよ。もう粉碎していくしかない。労力が倍かかると。本当に多い。そういうのが周辺を苦しめている一つです。

これを何とか周辺部の、これはもうここで繰り返し、繰り返し御案内して、もう十分分かっていることだと思いますけども、これ草刈りすると大変です。粉碎しなきゃいけないから倍かかります。

例えば消毒——消毒じゃないや、何ていうの、除草か、簡単に畑に影響しないような除草剤、そういうのをまく。そういうふうなのが労力は減りますし、ただ、お金はかかる。そういうふうな援助はできないのかというのが1点。

もう1点は、周辺部対策の中の一つ、地籍図に航空写真をというところであります。

こっち側、武雄市が発行している字図です。地域の字図、自分の番号を知りたいからといって、聞いたらこういうふうな画像が出てきます。こっちのカラーの航空写真は、伊万里市が発行している部分です。これちょっと2つ重ねたっちゅうところをちょっと切り取って、縮尺を合わせてやったんです。

これだと、自分の土地がどこがどこだかちょっと分からんですよね。こっちだと分からない。でも、こういう航空写真だと、自分が、ああ、この辺がうちの土地なんだ、ここがうちの土地なんだというのがよく分かります。

これは何でかという、田舎のほうは、周辺部は山をたくさん持っています。父ちゃんが亡くなった、山を受け継いだ。でも、どこにあるんだろうと、武雄市の字図を取ればこういうふうな形が出るんで、なかなか把握できない。でも、こうやって航空写真に重ねて出てく

ると、ある程度把握できます。

これから、今もそうですけども、どこがうちの山か分からんもんねっていう声を今でも聞きます。

どこか調べようと思ったら、地域のおんちゃんの人、こっからここまでじゃなかかかenyてぐらいしか聞かんですけれども、こういうふうな字図だと分かりにくいけど、航空写真であれば分かりやすい、把握しやすい。

武雄市はまだ採用されておりません。これはさっき言いました、伊万里市は採用されています。ぜひ、これを採用していただきたい。

以上、2点をお伺いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

おはようございます。薬剤等の購入などの地区の実情に合わせ、柔軟に対応できるよう、現在あります地域資源保全管理支援事業の制度の見直しを図ってまいります。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

交付につきましては、住民サービスの向上、新たな自主財源の確保等の観点から、交付に向けた準備を進めてまいります。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。

以上で一般質問を終わります。

教育委員会さん、よろしく申し上げます。

備えあれば憂いなし。

以上で終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で 18 番 牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5 分程度休憩いたします。

休	憩	10時00分
再	開	10時8分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番毛利議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番毛利清彦、一般質問をさせていただきます。新人議員、2回目の質問でございますので、不慣れな点がありましたら御了承をお願いしたいと思います。

今日の私の一般質問は、「武雄市の人口について」、「西九州新幹線について」、「地域包括ケアシステム拠点整備事業について」の、この3点についてお聞きしたいと思います。

まず、質問の前に、ショッキングな記事を御覧いただきたいと思います。

イーロン・マスク氏が言われました、5月7日のツイッターで日本は消滅するよと、怖い話でございます。もう皆さん御存じだと思いますけれども、2020年の10月から2021年の9月までの1年間、総人口の変化を見ると、日本人の人口は65万人減少したと。死亡者数が144万人に対して、出生数が83万人にとどまり、差引き61万人の自然減となったということで、出生率が死亡率を上回るような変化がない限り、日本はいずれ消滅するだろうと、そういうふうな怖い話なんですけども。

まず最初の質問は、武雄市の人口の増減について質問をしたいと思います。よろしく願いします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

武雄市の人口の増減についてでありますけれども、住民基本台帳に基づく人口での1年間の比較をいたしますと、昨年3月31日現在の人口4万8,390人に対し今年3月31日現在の人口は4万7,951人で、439人の減となっております。

自然増減、社会増減の内訳では、自然増減では出生者368人、死亡者640人で、272人の減。社会増減では、転入者1,484人、転出者1,639人で、155人の減となっております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

今、お話がありましたように、430人ですか、減。私が調べた調査によりますと、これは令和4年、合計4万7,959人。今、492人ですか、まだ減っておりますけれども。

令和2年の2020年10月1日の国勢調査によりますと、2015年から1,100人減っております。すごい減り方です。また、参考、佐賀の人口とかを見てもらうと結構なんですけれども、本当に減っておるような現状です。

この減っている内訳といいますか、一覧表といいますか、各町の人口の増減について質問

したいと思います。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）各町別の人口増減になりますが、武雄町と朝日町では増、他の町においては減となっており、特に山内町、北方町での減が大きい状況となっております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

よかったら、もう一度、今のモニターをお願いします。

御覧のように驚きと思いますけれども、さきの水害によりまして、やはり北方町の議員さんもいらっしゃいますけれども、本当に221人の減でございます。やはり水害が原因じゃないかなと私は分析しているんですけども。

私の地元の橘町も私、神主しておりますので、地鎮祭とか家の解体とか行きますけれども、今年は、家を解体してくれというお祭りに2件ほど行きました。やはりお話を聞きますと、もう、水害なので、もう橘町を出ていくという話でございました。調べますと、やはり10世帯ぐらい橘町から出られました。

ということは、この三角マークといいますかね、減というのは、水害とか高齢者とかいろんな問題があると思いますけれども、この北方町の減り方は異常でございますので、この辺の分析等はされていると思いますけれども、ぜひ、いろんな増減について要因があると思いますので、この辺もいずれ調査とかしてほしいと思っております。

これについて質問はいたしませんけれども、次にショッキングな、——人が減っているというのに上乗せしまして、これも佐賀新聞のほうから出た警視庁生活安全局生活安全企画課の発表ですけども、コロナの影響で自殺者が8,000人も増えたという記事が出ておりました。コロナでこれだけの自殺者。

一番多いのは、平成15年でしたか、4万人ぐらいいたそうなんですけど、ずっと下降気味で、例年2万人ぐらいの自殺者がいらっしゃる。コロナで自殺する。要するに、就職難とか経営不振とか、そういう理由で日本全国8,000人も減ったということが発表されております。

これも就職、経営不振、これも市として、やはり経営不振の方を救済するといいますか、そういうのも考えてほしいと思います。

ここで、現状の一般質問はしませんけれども、市として、日本がこういう状況であるというのを把握されていると思いますけれども、ぜひ、この数字を現実の数字と思って調査、ま

た、対応をお願いしたいと思っております。

これだけ減ればですね、すごいことになっておりますけれども、もう一つ見てほしいのが、これも御存じだと思いますけれども、同じように佐賀の人口も、現在、佐賀の人口が81万2,000人余りですが、これも去年から6,000人が減っているんですよ。

人口増が、鳥栖市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき郡。イメージいいですよ、人口が増えたら。本当に、何か増えたらイメージがいいというか、武雄は何かイメージが悪いというか、減っていますんでね。増えた地域は本当にイメージがいい。

県の政策部がコメントを出しております。これもNHKただいま佐賀で出たコメントですが、これも。「人口減少は避けて通れない問題」だと、「いかに佐賀を魅力的にするのがポイント」と。「いかに佐賀を魅力的にすることがポイント」と書いてあります。佐賀を魅力的に。「それと佐賀の人たちに地元を好きになってもらう政策に力を入れていきたい。」

これちょっと気になったのが、「地元を好きになってもらう」というコメントですけど、地元を好きになってもらうということは、地元があまり好きじゃない、好きじゃないから、こういうふうな地元を好きになってもらう政策に力を入れていくと。こういうコメントを県の政策部が出しておられます。

これを逆に、武雄としてコメントするのでしたら、いかに武雄を魅力的にするかがポイントですね。佐賀の人たちに地元を好きになってもらう政策に力を入れていきたいと。

今日のテーマは、社会増から自然増というのをテーマにして話を進めて、質問をしていきたいと思っております。

それで、武雄市も自然増に力を入れておられます。お結び課、大変ですね、御苦勞をされております。お結び課の業務内容をお聞きしたいと思います。

現時点での実績について御質問いたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

おはようございます。まずもって、令和4年度の実績につきましては、4月から8月までの5か月間におきまして、会員同士で成婚された方々が8組、16名、会員以外の方と成婚された方々が28名、計44名でございます。

本事業におきましては、平成22年9月から開始しておりまして、これまで成婚された方々は、会員同士で53組106名、会員以外の方とで195名の計301名でございます。

なお、成婚を希望されている方々の相談、紹介以外に、趣向を凝らしたイベントなども行っておりまして、最近では新型コロナ感染拡大に伴い事業自粛の時期もございましたが、お見合い件数、成婚数ともに年々増加している状況でございます。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

大変ですね、お結び課の方は日々努力をされて、受け身の部じゃなくて、攻めの部といたしますか、そういうのに本当に感銘をするわけでございます。

私の資料によりますと、やはり増えているということで、例年のですね、昨年よりも6倍の実績を推移しているということで、大変うれしいなと思っています。こういうふうなお結び課をやはり積極的に応援したいなと思っております。

そのお結び課に対して、市のビジョンについてお聞かせいただければと思っております。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

お結び課が頑張っていると言っていただいて本当にありがたく思っています。

私、3つあると思っていまして、一つは、やはり今かなりきめ細かくサポートをしておりますので、そこをこれからもしっかりと継続をしていくというのが一つです。

そして、もう一つは、コロナ禍でやはり出会いの場というのがどうしても以前よりも減ってきているということですので、さらに登録者を増やしていくというところが2つ目です。

そして、この3つ目なんですけど、市外や県外の方の登録者を増やして、そして、市の定住・移住政策と連携をして、成婚をしていただいて、その後、武雄に移り住んでもらうと。この移住政策との連携というところで、結果、武雄に住んで幸せな御家庭を築いていただく。ここにも今後、さらに力を入れていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

個人的な見解ですけれども、やはりいろんな少子化問題、これはですね——、次に上げます——少子化問題よりも少母化問題。

結局、私の調べたデータ、1985年、37年前ですけれども、1,060万人いたお母さんが30年後、2015年ですけれども、半分の497万人に減ったと、——しかないと言いますかね、——半分になったというデータがあります。要するに、今、1.4人ぐらいですかね、1人、女性が産む子供の数といたしますか、そういうデータですけれども。

まず、それは大きな間違いで、お母さんがいないという問題が起きている。これが人口が増えない大きな問題だと思っておりますので、こういうのを、やはりお結び課なりとも、やはりこれを応援してほしいと思っております。

今日のテーマですけれども、社会増から自然増、社会増というのは本当に見込めないと思います。要するに、人口の奪い合いになるので、あそこが増えた、こっちが増えた、こっち

は武雄市は増えた、しかし、どこかは減るんで、やはり自然増への検討をぜひ議論して、攻めのお結び課じゃないですけども、市を挙げて、自然増の道を歩むような方針を取ってほしいと思います。

また、移住問題でも、これはやはり結婚したら空き家政策として、空き家を1軒あげるよみたいな感じで、そういう議論もいいんですけども、やはり今問題になっています、いろんな宗教の問題もありますけれども、変な人が居住されたら困るなど、出て行けではないですけども、そういう問題もありますので、簡単に、結婚したらこっちに移住してくれ、空き家をやるよと、そういうような問題にならないと思いますけども。

ここを重点的に、個人の見解ですけども、少子化ではなくて少母化。頑張ってもらいたいのはお結び課。もっともっとお結び課に頑張ってもらって、社会増から自然増へというふうな道を進んでほしいと思っています。

次にですね、また怖い。先ほど申しあげました、県としましても、魅力あるまちづくりを目指そうということで、今日のポイントもですね、これ何ですか、これ。都道府県の魅力度ランキング、佐賀が46位です。去年、括弧を見ますと、45位からまた46位に下がっているんですけど、これは2001年のブランド総合研究所調べなんですけども。

とても魅力的は100点で、やや魅力的が50点。あとは0点。

46位。ゴルフでいうと、ブービー賞です、ブービー賞。ゴルフでブービー賞だったら、商品もいいんですけども、拍手もあります。これは拍手がもらえない数字なんです、46位。47都道府県の中の下から2位ですね。これはすごい数字ですね。

ちょっと、画面を大きくしてみますと、ここなんですよ。魅力ある県が福岡が7位、長崎が8位、佐賀46位。

新幹線が通ります。私も、もし九州を初めて旅をする、旅行するという前提で話をしますと、関東から、九州はどこがいいだろうかと、阿蘇がいいだろうか、宮崎がいいだろうか、そうね、長崎に行こうという話になると思います。2泊3日。

そうすると、福岡の観光をして、中州でどんちゃん騒ぎして屋台で酒を飲んで、次は長崎に行きますよ。8位の魅力がある長崎。長崎を観光して、ちゃんぽん食べて帰ると。2泊3日。間の46位の魅力がない県に行きますかという話ですね。

要するに、7位と8位、魅力ある県の間にいます、佐賀県46位。本当に魅力がある県にしないと、武雄市にしないと、新幹線もできました、本当に、この順位は変えようがない順位なので、ゴルフでいう飛び賞じゃありませんけれど、上位を目指して努力する必要があると思うんですけども。これが魅力度ランキング。

もう一つ面白いのがですね、ありますね、よく調べると。愛着度ランキング。愛着度もブービー賞なんですよ。けつから、けつからという言い方はね、下から2番目。前は40位が46位に下がっています。

愛着度がない。要するに、地元の人が愛着度がないんですよ、この数字によると。だから、怖い話で、佐賀県民は、佐賀の自分のところに愛着がないという答えがこの数字に出ております。

市も頑張っておられます。この数字というのはもう御存じだと思います、執行部の方はこういう数字はね、もう頭の中に入れておられると思いますけども。

市も一生懸命頑張っておられます。毎回、面白いアイデアを出されますですね。私も感心しているんですけども、本当に武雄市の新幹線課とか、いろんな課がいろんなアイデアを出して、私はこのアイデア、皆さんすごいなと思って感心しているんですけども。

魅力ある市にするためにですね、私、探しました。武雄市移住支援サイト。これもね、さすがだなと。今はやりの「たけ押し!」、これもいい標語だなと。右側の、これも私、感動しました。ぽぼちゃん。先ほど申し上げました、魅力があるかないかじゃないですけども、一般の市民に武雄市の魅力を伝えていただける方を募集します。ぽぼちゃん、募集しました。

それについて質問です。このぽぼちゃん、武雄市の魅力を伝えていただける方の報告をお願いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

まず、ぽぼちゃんを使った魅力を発信ということで、大きく3つの方法で今、発信を行っております。

1つ目が、先ほど議員が御指摘いただきました各種団体や市民を巻き込んだ情報発信でございます。

これにつきましては、ぽぼちゃんと一緒に武雄市の魅力を発信する方を3回にわたり募集いたしまして、ピープル株式会社様より100体を超えるぽぼちゃんを贈呈いただきまして、それを皆様方にお配りし、SNS等で投稿して武雄市の魅力を拡散するという事業でございます。

現在、1回目が終了しておりまして、今、2回目の募集を行っております。3回目につきましては、来年の1月に募集、全体で約100体を皆様方にお配りするという計画でございます。

そのほか、ピープル株式会社様が運営しておりますぽぼちゃんのホームページ、インスタ等で武雄市の情報発信を行っていただいたり、ぽぼちゃんが武雄市のお出かけスポットに出かけるポスター等を掲示などを行っております。また、こども図書館や宇宙科学館において、武雄市オリジナルぽぼちゃんのおそろいの写真撮影会、衣装撮影会等も開催をして、PRを行っているところでございます。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

ぼぼちゃんの話はいいんですけども、問題は、私が言っているのは、武雄市の魅力を伝えていただける方を募集、武雄市の魅力について、何か内容的に武雄市の魅力、そういうのは資料としてないでしょうか。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘の分でございますが、まず、今、取組をしております1番目に御報告をいたしました各種団体、市民を巻き込んだ情報発信という中で魅力発信をお願いしているということで、これにつきましては、各団体、保育園、もしくは個人も含めて武雄市で一緒に実際に住んでいただいて、ぼぼちゃんと一緒に武雄市のいいところを発見していただき、それを発信していただくということで、皆様方にそこはお任せをしているという状況でございます。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

私が聞きたかったのは、その武雄市の魅力、こういう魅力が、募集をしたのにあるよというふうな紹介をしてほしかったんですけど、ぜひ、次回ですね、武雄市の魅力、こういう魅力も上がっていますよというのを、報告をお願いしたいと思います。

以前から申し上げています、人口が減って、どうやって増やそうか。要するに、佐賀もそうですけど、佐賀県も一生懸命考えてほしいのは、やっぱり魅力なんですね。こんな魅力がある。

そこで、武雄市の魅力。伝統行事で、1階のロビーで武雄の祭りということですかね、写真展が行われていますけども、浮立の写真がずっと16点ばかり並んでいますけれども、そういうような武雄市の魅力ある、武雄市に住んだら、こういうふうな魅力がある市なんだよ、すてきな市なんだよと、ここで、武雄市に住んで子供を育てたいと、そういうのを情報を発信してほしい。そうすることによって、さっきブービー賞の佐賀県じゃありませんけれども、魅力ある市になると思います。

ぜひ、伝統文化の活性化について、どう伝統行事を活性化させるか。市のビジョンとして御質問いたします。

○議長（吉川里己君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

まず、ちょっと市の取組のほうを御紹介させていただきたいと思います。

市の取組といたしまして、指定を受けている重要無形民俗文化財の保存会への補助制度のほか、文化財の指定、未指定を問わず、道具の修理などの相談対応や情報交換、また、国や県、民間などの補助制度の紹介をするなど、伝統芸能の継承・伝承に努めております。

昨今のコロナ禍の厳しい状況の中、地域の保存会では、工夫しながら継承活動に奮闘いただいております。伝統芸能の発表の場であります武雄市伝統芸能まつりが、ここ3年中止になったこともありまして、先ほど議員のほうからも御紹介がございましたが、広く市民の皆さんに武雄のすばらしい伝統芸能を知ってもらい、伝承につなげていこうと、現在、市役所1階ホールにおいて伝統芸能パネル展を行っているところでございます。

今後のビジョンにつきましては、昨年度、武雄市文化のまちづくり構想を策定し、これまでの武雄の文化を大事にしながらも、新しい要素を取り込み、新しい文化を生み出し、活気とにぎわいが生まれるまちを目指すこととしております。

その実現に向け、地域に根づく文化を受け継ぐ若い人材への育成、人づくり、また、地域の伝統芸能や伝統文化など、特色ある地域の財産を受け継ぎさらに発展させ、市民につなげることなどを取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

私の質問というか、結局、これは一連の流れでお話をさせていただいておりますので、魅力ある市、もし結婚したら、こういうふうな、武雄市は伝統行事があるので参加をしてほしいとか、そういうふうな積極的な地域との取組を考えてほしいと思っておるので質問したわけでございます。

6月の初議会で私、一般質問をさせていただきました「武雄市民遺産」、私の願いでございます。やはりいろんな地域、地域に、重要文化財、国宝以外に、先ほど牟田さんも言われましたキャンプ場じゃありませんけれども、そういうふうな宝物がたくさんあると思うんです。それを市民遺産にしてほしいと。

その後の進捗状況をお聞かせください。

○議長（吉川里己君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

「武雄市民遺産」制度設立につきましては、既に行われております他市の先行事例や文化財の既存の各種制度の動向などを現在、調査をしているところでございます。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

今、また同じ返答がありましたけれども、調査中ということでございますけれども、調査はいつまで続くかよく分かりませんが、47都道府県の46位という意識を持たれて、やはり村おこし、まちおこし、武雄の魅力を発信してほしいので、提案したのが「武雄市民遺産」でございます。

市民の遺産をつくることによって、いろんな地域から、武雄市はこんなすてきなところなんだ、未来に伝えたい武雄の宝をもっとPRして、武雄に住みたいとか、武雄で子供を産みたい、育てたい、社会増から自然増へと計画をもっともっと思っております。ぜひ、「武雄市民遺産」の前向きな検討をお願いしたいと思います。

ちなみに、前回、浮立、地元ですみません、橘の伝統文化、彼岸登りが今年9月20日から26日、これも珍しいお祭りです。彼岸の、各区で1週間ですね、浮立を立てて。今回、コロナで縮小されますけれども、こういうお祭りをですね、やはり武雄の宝ということで、市民遺産にぜひ推薦を、——いろんなところもあると思うんですよ、いろんなところも、やはり市民遺産にしようと、そして、武雄市をPRしようと、そういう前向きな取組をお願いしたいと思います。

次に行きます。

西九州市新幹線についてですけども、私がびっくりしたのはですね、(資料提示)「佐賀県市町ハンドブック」皆さん御存じだと思いますけど。これは何ですか、これ、この表題。2022年秋、西九州新幹線、嬉野温泉駅開業。武雄温泉が入っていないよね。これは問題ですね。こういうのは、チェック入れられたんですか。

私、その中で、ずっと読んで、中を読んで、中身はすごいなと私は感動しました。こんないいハンドブックがあるんだったら、表紙はもう少し議論し合うべきだったんじゃないかなと思って、こういうのですね。武雄市も、武雄も入れてほしかった、武雄温泉駅。何か嬉野温泉駅だけ開業するみたいな、ハンドブックなんですけども。

私が、これはすごいなと何か感動したのが、中の武雄市、名産・特産品の中におすすめ情報として山内のパクチーとか、橘産さがびより、あと、レモングラスとか書いてありますけれども。

橘産さがびより、読ませていただきますと、武雄市橘町で生産されているさがびよりはということで、「JR九州、クルーズトレインのななつ星の食材としても採用されています。」このコメントは非常に密ですよ、これは面白いというか、これはすごいなと思ってですね、中身は褒めました。これは、表紙は褒めていませんですけども。

こういうふうな、西九州新幹線にどう対応するか、地域の活性化、新幹線開業を機に、トップセールスについてお聞かせいただきたいと思っています。

○議長(吉川里己君)

小松市長

○小松市長〔登壇〕

新幹線が開業して、武雄は交通の要衝となって利便性がますます高まります。やはり、先ほどから社会増減というところと、あと、自然増減、移住をしてこられた方々が、お子さんが生まれれば社会増でもあるし、自然増にもつながるというところで、非常に大事だと思っ
ていまして、これはやはり利便性で、通勤通学範囲も広がります。武雄に住むと、非常にや
っぱり暮らしが便利に豊かになってくるというところを捉えて、周辺自治体、市外からの人
を呼び込むというのがまず一つです。

呼び込んだ後、やはり大事なのは雇用だと思っています。仕事の幅を広げて、そして、多
様ある業種で、様々な仕事があるというところですので、やはりここについても、今日、佐
賀新聞で株式会社平島さんの進出が載っていましたが、平島さんも、やはりこの要衝
であるというところを重視して武雄に、熊本から進出されたということですので、やはりこ
こを活用して企業も呼び込むというところではあります。

観光についても、やはりここは広域でしっかりと連携して、武雄を基点に西九州を回って
いただくような、人を呼び込むというのがありますし、せっかく長崎とつながっていますの
で、やはり佐賀と長崎の流動性を、私は高めていく必要があると思っています。どうしても、
長崎の人が佐賀に来るということがそんなになかったと聞いていますので、そういったあた
りもしっかりと長崎に、この武雄から売り込んでいきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

私、個人的に、福島県の福島市の小林前市長とよく知り合いで、福島は、果物は桃が有名
なんですね。1位が山梨県で、2位が福島県。皆さん、福島県の桃が有名だという認識はな
いと思いますけども、山梨県が3万トンぐらいですかね、福島が2万トンぐらい、そういう
桃が取れてます。

桃が有名じゃないんです。福島は震災でイメージが悪いんですけども、小林前市長と一緒
に駆け巡りまして、トップセールスといいますかね、桃を売り込みに行ったことがあります。
それで今、何年か前、スーパーに福島産の桃が出ております。先月も出ていましたけれど、
ああ、ここまで福島産の桃が有名になったなと言って喜んでおりますけれども。

そういうトップセールスといいますか、物を売り回って地域を有名にするというか、それ
も市長の仕事ではないかなと思っています。

それで、先ほどお話ししました、今、田園風景で夢しずくが穂をつけております。もうそ
の後、さがびよりに行くと思いますけれども、先ほど申し上げました山内のパクチーとか、
佐賀産さがびより、これは12年連続の特A評価、いろんな産業というよりも、こうして挙げ
ているのは特産物ですので、こういう特産物がこの武雄にもたくさんあるよというのを紹介

してほしいと。

先ほども答弁で、市長はもう、——いいですかね、市長に——市長の戦略等をお聞きしたいんですけれども、いいですか。では、市長の新幹線に対しましてのいろんな戦略をお聞かせください。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

地域産業の活性化ということでいうと、今、挙げていただいているように、武雄には本当にたくさんの魅力的なものがあります。ブランド化されているものもあります。

私はやはり、今回、新幹線でたくさん武雄にお客さんが来られるきっかけになると考えていまして、その方たちにいかに、やっぱりこの名産・特産物との接点をつくるかというところが大事になってくると思います。

今まではどちらかというと、農業は農業、そして、それを販売する、観光は観光というところがありましたけれども、例えば観光と農業をもっと組み合わせ、言わば体験することが観光にもつながる、そして、そこで買ってもらったものが農業の振興にもつながると、そういう体験価値みたいなのを、これをきっかけに増やしていくことが観光客の満足度と、そして、地元産業の活性化にもつながってくると思いますので、そこは観光協会などともしっかり連携をして進めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

ぜひ、観光協会とさまざまな地域との連携を取って、地域産業の活性化に努めてほしいと思います。

それと今、新幹線の御船山口の広場に、橘町出身の方がOLYというレストランをつくっております、喫茶店が開業いたします。その窓ガラスに、武雄中学校、これ武雄高校も入るんですけれども、美術部の方が窓に新幹線の絵を描いておられます。みんな協力的に、この新幹線で応援しよう、応援体制に入っています。

その橘町出身の方がですね、先ほど申し上げましたように、橘産のさがびよりを売り込もうという活動をされています。右側にかわいい女の子のキャラクターがありますけれども、これですね、私も一役買わせてもらいまして、議員になる前に商標登録を取りました、「橘みさえ」、登録番号ありますけれども、これ議員になる前なんです。

いかに橘町のイメージキャラクターをつくろうということでつくったのが橘みさえ。橘出身の方は、小学校出身の方は御存じだと思いますけれども、橘小学校の校歌、「橘は実さへ花さへその葉さへ枝に霜降れどいや常葉の樹」、その歌詩から取った橘みさえです。

このキャラクターが橘町のお米を有名にする、いろんな面で、この活用をいろんなところで橘みさえを登場させたいと思いますので、執行部の方、ぜひ、この橘みさえを、蛇足ですけども、利用していただければと思っております。

答弁しますか。(発言する者あり)では、そういうことですので、一応、答弁といいますか、もう感想で結構です。私もいろんな面で商標登録、これ商標登録というのは、くまモンと対等なんですね、特許なんです。これを取りました。取るというのは大変な、商標登録は作業が大変です。私もあと2つぐらい、全部で3つぐらい持っているんですけども。

このキャラクターを橘町の起爆剤になるかどうか、どなたか、質問をいたしますけれども、お願いいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

御提案ありがとうございます。

内部でも検討しながら、ぜひいろんな活用ができれば、できれば活用していきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

どうもすみません、変な質問しましたけども、そういうことで、地域を挙げて新幹線を応援して、武雄市を応援しようと、本当に武雄市を魅力ある市にしたいと、そういう気持ちでいろんな活動を地域共々、頑張っているような次第でございます。

次は、全く違うんですけども、地域包括ケアシステム拠点整備事業についてですけども、現状についてということで、市内における拠点整備の状況をお聞きしたいと思っております。

高齢者の自立生活の支援を目的にされていると思います。各町の第2層協議体で、介護予防生活支援について協議を、いろんな協議をされておられます。また、活動の拠点として、拠点整備が各地域で行われていると思いますので、その各地域の拠点の整備状況をお聞かせ願います。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

現在、市内6町におきまして、地域包括ケアシステム拠点整備事業補助金を活用いたしまして空き家の改修、プレハブの設置等がなされております。

その拠点におきましては、活動等に関する情報共有、話合いの場、気軽に行ける居場所と

して活用されており、また、この拠点を通じて、自宅や商業施設までの移動支援、ごみ出しなど日常生活における困り事支援、サロンや介護予防教室など、地域住民による支え合いの活動につなげていただいております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

各地域でいろんな努力をされておられると思います。

橋町でも、先ほど牟田議員が言われましたが、本当に民生委員が走り回って、会議の中心となって、これ本当に頑張っておられますというか、本当にかわいそうなぐらいといいますか、本当に一生懸命やられています。

橋公民館の横に空き家がありましたので、この空き家を拠点としまして会議を進めて、11月にオープンをする予定です。

地域包括ケアシステムで、特に重要なのは介護予防と生活支援と言われていますが、まだまだ知名度が高いとは言えないのが現状です。要するに、知名度なんです。知名度は高いと言われていない。何やっているんだということで、会議もいつも出られます。

拠点について、存在と役割を知ってもらうことが大切なんですけれども、活動の担い手を確保するのに大変なことになっています。大きな課題があります。

そこで、2040年には超高齢化社会が想定されますので、地域全体で推進していくことが重要と考えておりますけれども、そこで市の見解をお聞かせ願います。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

まず、地域包括ケアシステムにつきましては、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように地域で高齢者を支える仕組みであり、現在、既に各地域にある自然、資源、歴史文化、コミュニティー等を生かした活動、取組が実施をされており、それらを生かしながら、議員御指摘のとおり、地域全体で推進していくことが重要であると考えております。

市といたしましても、今後も引き続き、会議や話合いの場に参加し、情報交換、情報共有を行い、地域と連携した、さらにまた、その見える化に努めて地域包括ケアを推進していきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

一番問題なのは、運営費の確保なんですけれども、亡くなられた松尾陽輔議員が6月に議会で質問をされておられます、運営費はどうなっているんだということで、市長はこう答え

られました。

「今後、自分が住み慣れたまちで住み続けていく、安心して住み続けていくためには、やはり地域包括ケアという大きな非常に大切なことだと思います」ということで、「この活動は、今後、進めていくためにも、介護保険事務所から広報されております介護保険、介護予防の事業の交付金などを活用しながら、運営費の支援の枠組みについて今年中に策定したいと考えております」という市長の答弁でございます。

拠点事業の補助金が3年間400万円がもらえるというか、事業を継続するために、地域の活性化のために、この400万円、運営費を3年間いただくというか、11月にオープンするので、その後、今、電気とか水道、Wi-Fiも入れたということで、現時点で、年間、やはり維持管理が50万円くらいかかるんじゃないかなという査定をされておりますけれども、要するに、3年後、自主運営のめどが立たないと。

市の財政支援をはっきりとお示しいただければと思っております。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

市といたしましても、今後の運営費の確保が各町の懸案事項であるということにつきましては認識をいたしております。

拠点整備事業につきましては、整備が完了し、今年度で拠点整備の補助期間が終了するまちもあります。こういったことから、議員先ほど御指摘がありましたように、光熱水費や活動等に対する支援など、来年度からの新たな運営費支援制度について今年度に策定をしたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

ありがとうございます。

一応、予算計上してもらえるという理解でよろしいですか。策定というか、補助金があるという理解で結構でしょうか。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

今、予算計上につきましては、先ほども言いましたように、拠点整備事業の補助制度の予算を計上しておりますけれども、来年度からは、それに補助期間が終了したような地区については新たな活動経費の予算を計上したいというふうには考えております。

○議長（吉川里己君）

3番毛利議員

○3番（毛利清彦君）〔登壇〕

すみません、何回も。補助金があるというか、予算をつくってもらえるというか、そういう理解をしております。

地域包括ケアシステムというのは、必要かどうかというのはまだ議論の段階ではないんですけれども、橘町といますか、地元、地域で言えば、現時点で拠点をつくってグラウンドゴルフもやっておられます。3か所くらい地域でやっています。それとあと、マージャンクラブをつくって活動をされています。もう拠点があります。

それで、また新しく拠点をつくとまた、拠点に行くにはどうすればいいのか、遠いので、それも大変だという話もあります。車で行くのも遠いし、車の運転できない。地域の方とグラウンドゴルフをやって、マージャンやったら楽しいよみたいな話も聞きます。

そういうのを市として、やはり現場の意見を聞きながら、やはり成功するようにといいませんか、地域包括ケアの本当に、再確認という言い方は悪いんですけども、やはり地域の特性に応じた地域包括ケアシステムをつくってほしいと思っております。

以上で3番毛利清彦の9月の一般質問を終わりますけれども、再度、確認をしますけれども、やはり47都道府県の中のブービー賞を取った佐賀県、これは恥ですので、やはり地域を挙げて村おこし、まちおこし、そして、魅力ある武雄市を皆さんで力を合わせて心をつなげて盛り上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

これで終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で3番毛利議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩いたします。

休	憩	10時59分
再	開	11時6分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、8番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を願います。8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきましたので、8番豊村貴司、一般質問を始めます。

執行部におかれましては、テレビの向こうで見られている皆さんにも伝わるよう、簡潔で分かりやすい答弁をよろしくお願いいたします。

9月23日、あと2週間もすれば、いよいよ西九州新幹線が開業します。これまで、西九

州のハブ都市を目指すとし取り組んできている武雄市、これからは実際にそのことを形にしていかなければなりません。開業後にどのように武雄市が展開していくのか、このことは武雄市内の住民の皆さんだけでなく、周辺自治体や民間企業など多くの方が注目するところがあります。

だからこそ、武雄市がどのようになり、どう見据えることができるか、このことが重要であり、そのために私が必要と思うのは刷新です。佐賀の雄として、西九州の雄として、武雄市が新たな歴史を築いていくためには、武雄市の雰囲気刷新しなければならない、そう強く思います。

もちろん、刷新をするためには、課題に対しきちんと区切りをつけること、こうしたことも必要です。安倍元総理が銃弾に倒れたことに対し、警察庁長官や奈良県警の本部長が辞職し、管理者としての責任をもってけじめをつけました。

武雄市としても、ふるさと納税問題について、これまで市長、副市長、担当部長の責任について議会で取り上げてきました。

けじめをつけるべきところは、きちんと組織の管理者として責任の姿を示し、新たな武雄市として進んでいくために、刷新、その意識を持って取り組んでいくことを強く望みます。

最初、先日、ニュースに上がっていた記事について今日、牟田議員も述べられていました。私も驚きのことがありました。

サガテレビの解説主幹がはがくれ時評として述べているもので、そのタイトルが、「悲運の西九州新幹線、開業日は葬式の日」とあり、記事の締めくくりに、「新幹線開業日は、消えゆく在来線沿線住民にとっては葬式の日とされる、悲運である」と書かれています。

筆者の意図があったにせよ、この見せ方は開業を葬式と結びつけているものであり、私はこの記事を見たときに、怒りしかありませんでした。（「そうだ」と呼ぶ者あり）このように述べるサガテレビの解説主幹、そして、この記事を許したサガテレビに対し、武雄市として強く抗議をするべきと思います。

加えて言えば、そのような考えを持つサガテレビについて、新幹線開業の日に取材に来てもどのように報道するのか心配であります。

改めて武雄市として強く抗議していただくよう求めます。

それでは、最初の質問の項目に入ります。

まず、治水対策に入ります。

令和3年の水害から1年たちました。

国や県、そして、流域自治体都市や武雄市など、治水対策の事業に取り組まれています、現在の進捗状況についてその概要を答弁願います。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）議員御質問の治水対策事業の進捗状況でございますが、モニターにお示ししていますよう、国におきましては大きく3つの事業を行っております。

特に緊急河道掘削におきましては、ヨシの伐採がおおむね終了し、ヨシの生育抑制のための湛水池の整備が10月末の完了を目指して進められております。

次に、県におかれましては大きく5つの事業が行われております。

特に焼米ため池の貯留機能強化につきましては、放流ゲートなどを新設し、令和5年度からの稼働を目指し進められております。また、広田川の排水機場新設につきましても、令和6年度からの稼働を目指し進められております。

最後に、武雄市におきましては、短期的取組といたしまして、大きく4つの事業を行っております。

田んぼダムの整備、既存ダム、ため池の事前放流につきましては、地元関係者の御理解、御協力がなければできない事業でございますので、今後もさらなる関係者の御理解、御協力を得られるよう、関係各課と連携しながら事業の進捗に努めてまいります。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、各進捗状況を述べていただきました。

武雄市も見える化というふうなこと、そして、考える化ということも治水対策として言われていますので、皆さんにもしっかりと理解していただきながら共に、全体として治水対策、動けるようにと思います。

そして、先ほどもありましたけれども、武雄市として取り組んでいる事業の一つに田んぼダムというのがありました。部長も言われましたように、多くの農業者の御理解、御協力があつての事業であります。

そこで最初に伺いますが、この田んぼダム事業において、堰板の設置状況等、どのように武雄市として確認をされているか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

設置状況につきましては、六角川上流域の東川登町は、内田、宇土手、袴野。西川登町におきましては、神六、庭木、高瀬。朝日町におきましては、黒尾、繁昌、川上の田164ヘクタールで取り組んでいただいているところでございます。

地区への堰板配布枚数につきましては、1,690枚、市が1,130枚、県が560枚の配布を行

っております。(発言する者あり)

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

先ほど、堰板を設置されているということがありました。

その堰板についてもスライドにちょっと出してますけれども、流出量、たまったものを出す、その量を調整する、流出量調整器具と言われますけれども、スライドにありますように、機能分離型、機能一体型というふうなところがあります。

いろんな文献を調べると、6種類ぐらいのパターンに分けて調査されたのもありました。

この器具についてなんですが、武雄市は機能一体型を設置されています。

以前、この田んぼダムについての講演があったときに、そのとき専門家の方も言われていましたが、機能分離型がいいということ言われていました。そのとき、「えっ」と思ったんですが、その後、私もいろいろちょっと調べてみました。いろんな文献も見て、やっぱり機能一体型、機能分離型での比較とか、そういったのもありました。

例えば、これは今年の4月、令和4年4月に農林水産省の農村振興局整備部が出している「田んぼダムの手引き」という資料ですけれども、その堰板の違いによる効果というところでありました。

上から、まず、機能一体型と機能分離型。青のほうは機能一体型、武雄市がしている分、赤のほうは機能分離型と言われる分です。

上からいったら、10年に1回程度の雨が降ったとき、このときは両方あまり変わらないぐらい、78%、機能分離型で74%ほどの流出の抑制効果があると。真ん中の、50年に1回程度の雨が降ったときは、機能一体型は約36%の抑制効果、それに対し機能分離型は約85%の抑制効果があると。100年に1回程度の大雨、こういったときには、機能一体型は約21%の抑制効果、それに対し機能分離型は約86%の抑制効果があるということが手引きにも示されていますし、私もいろんな文献を見たときに、やはりより多くの雨が、大雨となったときは機能分離型のほうが効果があると。

ただし、これも量を超すとあぜを超えてしまうので、もうそうなる効果としてはないというふうなところもあります。

先ほども——ここで質問なんですが、この機能一体型として設置されていること、この田んぼダム事業については市もですけれども、県も絡んでいると思います。この機能一体型にされたのは市の判断なのか県の判断なのか答弁お願いいたします。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

県の判断を基に機能一体型に取り組んでおります。

機能一体型は畦畔の整備された圃場において、水田排水口の堰板を差し替えるだけで田んぼダムを実施でき、経費を抑え、すぐに取り組むことができるから、この方法で実施を行っているところでございます。

田んぼダムを実施している県内9市町では、日常の水管理の機能と大雨時に水の放出量を調整する機能を併せ持つ機能一体型V字カットの入った堰板を設置している状況でございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

機能分離型と機能一体型では、雨の降り方による雨水の貯留の違いや排水時間の違い、専用器具の必要性があるかないかの違い、また、あと営農への影響の違いなどが言われています。営農への影響が少ないのは機能分離型のほうということも言われています。

先ほど、県の判断というふうなことで言われたんですかね。

機能分離型のほうは板をはめるだけじゃない部分、コストはその分上がる部分もあるかもしれませんが、やはりせっかく取り組む治水対策です、こういうふうには、いろんな文献でも明らかに機能分離型のほうがいいと言われてますし、専門家の方も講演でも言われてますし、私は、果たして機能一体型のままでいいのかなというふうには、せっかく取り組むんだしたら、より有効と分かっているほうで取り組むべきじゃないかなというふうに思います。

今後、このまま機能一体型のままでいくのか、この辺について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

今回が田んぼダムへの初めての取組でございます。

今年度同様、次年度についても現在のV字カットの入った堰板、機能一体型での実施を考えております。

佐賀県では、田んぼダム実施に関わる効果検証を佐賀大学に依頼しておりますので、その結果を見ながら、武雄市におきましても今後の調査研究を続けてまいりたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

小松市長、この点について市長のお考えを答弁願います。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、多くの皆様の御協力で田んぼダムをスタートさせることができました。

まずは、やっぱりできるところを早くやるということで、県の判断でもありましたけれども、機能一体型でというところでありました。

今後については、私たちとしては一番最優先でやるべきことは、今回参加いただいた、協力いただいたエリア外でも、さらにその協力エリアを増やしていくというところがまず最優先だと思っています。

ただ、やはり効果は上がったほうがいいと思いますので、さっき、県が佐賀大学に調査を依頼していると聞いていますので、その結果をしっかりと見て、今後、市としても、とにかく治水効果がどう上がればいいのかというのを総合的に考えて取り組んでいきたいと思っています。

なので、機能一体型で、もうずっと永久にいくということでは、そういうふうには考えておりません。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

率直に言えば、やっぱり、何でこっちのほうが効果があるって分かつとうとに、何でこっちにせんって思う、素朴な疑問と思います。

コストに関しては、やはり治水対策の部分でもありますので、何かしらひもづけできる部分もあるんじゃないかなというふうに思います。ぜひとも、より効果があるやり方というふうに思います。

次ですけれども、3月議会、そして、6月議会で開発と治水の関係について質問しました。

ちょっと、スライドに出しているのは、令和元年の際と令和3年のときの豪雨災害による浸水範囲ですね。一番下の青が、横に大きくあるのが、六角川流域全体としての浸水範囲。中段にあるのが、武雄市としての浸水範囲。これぐらいありましたと。令和元年では1,920ヘクタール、令和3年では1,730ヘクタール。

先ほど言いました田んぼダムですね、田んぼダムの協力範囲は164ヘクタールですね。

数字だけではちょっと言えない部分はあります、確かに。上流で少し水の流出、川に、本川に流れる分を抑えることによって、河口、下流域への影響を抑えていくというふうなところあるんで、単純に数字だけでは言えない部分はあるかと思うんですが、やはりこうやって見たときに、田んぼダムだけではもちろん、どうにも追いつかない部分があるわけですね。

冒頭、部長からも言うていただきましたように、様々な治水事業、そういったことをしっかり進めていただくということもありますし、あわせて、先ほど言いました開発と治水と

いう部分について、武雄市も新幹線開業があって、いろんな開発も進んでいくことが想定されると思います。実際に、田んぼが住宅地にどんどん変わっていったという現状もあります。

そうすると、今まで雨水をためていたところが一気に水路に流れて、それが一気に川のほうに行き、水位に関係してしまうと。そういったことがあるから、やはり開発と治水という部分を関連して考えるということをしなければいけないというふうなことを言いました。

これまでの答弁では、専門家の意見を聞いていくということはありませんでしたが、この開発と治水ということを計画的にしっかりと進めていくためには、特定都市河川の指定ということ、このことも検討するべきところと考えます。

この点については2月24日に開かれた六角川水系流域治水協議会でも言葉として出ております。

また、新・六角川水系流域治水プロジェクトのパンフレット、水色のパンフレットですね。その中にも対策の推進に当たっては、「特定都市河川浸水被害対策法等も活用していきます」と書かれていました。この特定都市河川の指定の場合、雨水の貯留浸透施設の補助制度もあったりします。

こうして、都市部についてそうした雨水をためる施設の整備、計画も行うなどしながら、全体として、やはり武雄市としての、武雄市だからこその治水対策を行っていかねばならないと思います。

そこで質問ですが、武雄市として、この特定都市河川の指定についてどのように検討をしているか、また、六角川流域治水協議会の状況についても併せて答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おっしゃるとおり、住宅ができる、そうすると、例えば住宅ができて、そこに降っていた雨は、必ずその分は低平地に行ってしまうと。

水が来ることから、命と暮らしを守らなければならない。一方で、じゃあ開発をゼロにするかと、そういうわけにもいかないということで、規制と開発のバランスをどう取ったまちづくりをしていくかというのが、まさに水と共生するまちづくりだと思っています。

この特定都市河川って、非常に言葉が難しく、何のこっちゃというふうに私も思ったんですけど、これは結局、六角川を、こういうふうに河川を指定することで、そのエリアの開発、一定以上の開発には少し規制はかかってくる。

ただし、いろんな河川対策、治水対策に、国の直轄なり、国の補助で大規模な治水対策ができるようになる。これは治水のスピードアップが可能になると。じゃあ、規制かかった企業はどうなのかということも、国から補助が出されるという仕組みだというふうに理解をし

ています。

やっぱり、六角川流域治水協議会でも話をしましたけれども、そこでは、それぞれ地域の事情があるので柔軟に検討していきましようというところまで確認できたということですが、武雄市としては、やっぱりこれだけ2回災害がありまして、住民の命を守ることが第一であるということなので、やはりこの特定都市河川を国に指定してもらおうというところを本市は目指すべきだと私は考えています。

今現在、その効果とかについては調査中ではありますがけれども、やはりここは一刻も早く指定を目指して、今後も協議を続けていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長も今言われましたように、武雄市だからこそ、この特定都市河川の分、ここを活用しながらでも、やはり計画的にまちのビジョンを、100年後、200年後、武雄市が安心できるまちであるために、そのためには計画性を持って、やはりいかないといけないと思いますので、しっかり検討を進めていただきたいと思います。

それでは、次の項目に行きます。

次は、新型コロナウイルス感染症対策についてです。

まず最初に、武雄市におけるワクチンの接種体制についてその概要を答弁お願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

現在のワクチン接種体制につきましては、医師会検診センターでの集団接種と市内各医療機関での個別接種にて実施をいたしております。

集団接種では、まだ未接種の方の1、2回目の初回接種をファイザー社で、5歳から11歳までの小児接種を小児用ワクチンで実施をいたしております。

個別接種では12歳以上の方の3回目接種、60歳以上の方と基礎疾患の方の4回目接種、これにつきましては、ファイザー社とモデルナ社のワクチンを併用し、月ごとにどちらかのワクチンを指定した形で実施をいたしております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、集団と個別があって、個別のほうで、月ごとに接種するワクチンがあるというふうなことでありました。

そうした武雄市の体制についてはどういった理由で決まったのか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

先ほどもちょっと答弁いたしましたけれども、現在使用しているワクチンは、ファイザー社、モデルナ社、小児用の3種類のワクチンを使用しております。

それぞれのワクチンについては接種量や希釈の方法が異なり、接種回数で接種量の違いもあり、異なるワクチンを同時期に扱うことでの接種ミス防止を図るために、安全を第一に、医師会とも協議を行い、2種類のワクチンを併用する医療機関における個別接種については、月ごとに指定した形での実施ということになっております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

管理上のミスが起こらないように、安全対策のために武雄市が医師会と協議をして、そういうふうにしたということですね。

実際に、私も住民の方から意見としてあったんですけども、自分で選べないのかという声もありました。例えばほかの自治体では、自分が希望するワクチンを接種してくれるところを一生懸命探し回ったと、そういった声も聞いたりとかしたんですよ。

例えば今後、国のほうでも新たなワクチンの承認が出てきたりすることもあると思います。

じゃあ、そうなったときには、今、月ごとに2つの種類の分がありますけど、じゃあ今度は3種類、4種類となったときに、4か月に1回のローテになるのかとかって、そういうふうなところもちょっと思ったりするんですけども。

先ほども言いました、希望するワクチンを選択できる、そういったことに関してどのように考えるか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

先ほど議員からも紹介ありましたように、今後、オミクロン対応のワクチンについても追加して使用される見込みであります。このワクチンについても接種量の異なる2社のワクチンが承認される予定ではないかというふうに思っております。

質問の件につきましては、今後もこれまでのとおり、配分量に合わせて、安全を第一に、医師会とも協議をしながら、安全・安心に接種が受けられる体制づくりに努めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね、安全・安心につながるような体制でということ、先ほど言ったように、選択できるというのも、一つは受ける側の安心もあるんじゃないかなというふうに思います。今後のちょっと状況もあるかもしれませんが、そこは今後の動きも含めて。

やはり安心できれば接種率もまだまだ上げられる、そういうふうにもつながるんじゃないかなと思います。接種率が上がれば、重症化の人の数の抑制になるかもしれないですし、感染拡大防止でさらに言えば、医療体制を守るということにもつながるかもしれません。

受ける側の、やっぱり心理というところも考慮いただいて、今後の検討につなげていただきたいと思います。

次に、抗原検査について聞きます。

現在、コロナ禍において、社会においては業務が継続できるようにと、私も介護施設でリハビリの勤務を今やっていますけれども、それはやっぱり当初と変わらないように、皆さんぴりぴりしながら業務しています。

やはり抗原検査キットというの活用しながら、業務が滞らないように、サービスが低下しないようにというふうな形で行っています。これは介護施設に限らず、保育所等でもそうですし、全体としてそのような社会状況、抗原検査を活用しながら、経済活動ができるように、業務が滞らないようにというふうなことで動いています。

こうした社会状況を武雄市としてどのように捉えているか、まず、この点について答弁お願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

これまで、市内の高齢者、障がい者施設や保育所等に対し、感染防止危機管理対策として、各施設で備蓄されている抗原検査キットの保有状況、そして、その購入可能な販売店の情報提供を図るとともに、備蓄が不足し検査キットの入手に時間がかかるようなケースにおいては緊急的に配布をしたケースもございますけれども、各施設においては、従事される職員が必要により抗原検査を実施されるなど、危機管理、感染防止の徹底がなされており、通常業務を中断することなく業務継続に努めていただいていると認識をいたしており、あわせて、その対応に対し感謝するところでございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

市としても、各事業所の備蓄状況、どれぐらい持っているかというのは把握があったと思うんですけども、多分、種類までは確認されていないと思います。それはちょっと事前の聞き取りで聞いたところもあるんですけども。

実際、事業所は、承認をされているキットと、そうじゃない研究用のキットというのがあるんですけども、皆さんももう既に御存じと思うんですが、研究用のキットのほうが安価だったりするわけですね、安いわけですね。事業所としては繰り返しどんどん使ったりする部分があるので、どうしてもそちらのコストを考えて、そちらのほうに動いているところもあつたりします。そういうのも聞いたりしています。

先ほど部長から、ないところ、どうしても手に入らないところは配布をするということもあるんですけども、実際に職員さんも、職員さんの中での会話では、どこどこのお店に行ったらキットがあつたよとか、そういう情報交換をお互いにしながら、自分たちでもキットを確保して、そして、仕事に行けるようにというふうなこと、また、仕事場への影響がないようにというふうなところで、一生懸命、そういうふうを守りながら動いているところがあります。

いかにして、もうキットも不足するというふうなことも上がっていますし、そういう中で、四苦八苦しながらちょっと取り組んでいるところがあります。

その中で、ちょっと次の質問なんですけれども、武雄市としては、昨年 5,000 本の抗原検査キットを導入されました。

当初は備蓄用というふうなことであつたと思うんですが、改めて、この抗原 5,000 本、導入された抗原検査キットの導入の狙いと、あと、どのように、どれくらい使つたか、その点について答弁願いますとともに、併せて、それ以降追加された抗原検査キットの追加時期と追加した狙いについても答弁お願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

抗原検査キットにつきましては、災害時における避難所をはじめ、市内各事業所におけるクラスターの発生など、非常時に迅速に検査をすることを目的に、コロナ感染第 5 波到来前の昨年 7 月に 5,000 キットを購入、備蓄をいたしております。

これにつきましては、事業所等への交付事業、学校閉鎖時の北方小学校でのドライブスルー方式の検査の実施、医療機関や薬局、保育施設への無償提供、災害ボランティア等に活用をいたしております。

追加購入につきましては、災害対応や市内での供給が困難な不測の事態に備え、今年 3 月下旬に 2,000 キット、8 月下旬にさらに 2,000 キットを購入、追加をいたしております。

現在の使用状況につきましては、備蓄が不足し調達が困難な施設に対し、緊急的な交付を

行っているところでございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

今年3月下旬に新たに2,000キットを導入とありました。じゃあ、その前に5,000キット導入した分は全て使い切ったんでしょうか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

5,000キット、昨年、購入をいたしておりますけれども、未使用分452キットについては廃棄処分をいたしております。

それまでの、廃棄までの経過について御説明をいたします。

今年1月以降、コロナ感染の第6波により感染者が増加し、市内の複数の事業所においてもクラスターが発生しておりました。

保有していた検査キットの消費期限は4月20日までで、4月上旬から中旬までの間、連日して事業者からのキットの交付申請が続いていたため、その対応と事業所等における新たなクラスターの発生に備え備蓄数の確保に努めており、期限切れに対する具体的な対応、検討までには至っておりませんでした。

結果として、消費期限5日前の16日からの交付申請がなく、20日の期限の日が到来し、翌5月に452キットを廃棄処分いたしております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

452キットを廃棄処分したということですね。

先ほど、冒頭言いましたけれども、どこでも一生懸命、どこにあるかとか探しながら、それぞれ手に入れたりとか購入したりしながら、業務が遂行できるようにとやっているわけですよね。

そういう中で、市が処分したというのは、私はちょっとこれは問題じゃないかなというふうに思います。

その後、3月下旬に2,000キット導入されたとあるんですけれども、そこを、どうせまた追加するというのが見込みがあるわけですから、そうしたら、そのことを見据えて、じゃあ、廃棄処分をしないでいいように、必要なところにさらにヒアリングするとか、積極的な配布をするとか、有効に使うことができなかつたのかなというふうに思います。

例えばですけれども、先ほど答弁で薬局や医師会、保育関係等に配布があったというふう

なことを聞きました。これはちょっと私も聞いたんですけれども、会議等でそういう声があったと聞きました。

実際に、去年の3月、令和3年3月には、観光協会関係から抗原検査キットの配布の要望書が出されていると思います。同じく、去年の4月には理容組合も——床屋さんの組合、こども抗原検査キットの配布について要望書を出されています。

じゃあ、こういったところに対してはどのように対応をされたのか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、昨年3月5日に武雄市観光協会から、4月5日に佐賀県理容生活衛生同業組合武雄支部から、事業支援として抗原検査キット備蓄の要望書の提出がっております。

これに対し、医師会からの、検査に際しては二次感染を防ぐための徹底した感染防止の装備の必要性、検体を正しく採取するための医療従事者が必要となるという助言内容と併せ、今後は、検査の実施等について医師会と調整をしていくという旨の回答を行い、キット備蓄の支援までには至っておりません。

その後、市民の安全・安心を図るため医師会と協議を行い、昨年4月からPCR検査費用助成事業、5月からはPCR検査実施事業を開始し、ともに10月末までその事業を実施いたしております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われた、去年、要望書があった段階で、医師会との話の中で、適切に検査ができるか、医療従事者の確保等という話があったんですけれども、それは去年の段階ですよ。まだ抗原検査キットが今のように普及、当たり前のようにあるような状況じゃないときです。

それから経過して、先ほど言われたように、いろんなところに配布されたわけですよ。声があったから配布された。

やっぱりその辺、全体で考えたときに、ちょっと公平性が保てていないんじゃないかなというふうにも思います。片方は要望書も出していたのに、そこには結局、何もないわけですよ。

繰り返しになりますけれども、処分しないでいい方法がなぜ取れなかったのかというふうに思います。

実際に、武雄市としてコロナ対策の本部会議も行われていますけれども、こうした検査体

制について、備蓄となったら防災のほうですよ。配布事業となったら健康課だったりします。実際に、学校も文科省から来ているわけですよ。そこもどういうふうに使ったかというのがあります。

ただ、それぞれがやはり分割しているようなところもあると思うんですよ。総合として、武雄市として、どうこの検査体制を取り組んでいくか、取りまとめていく、そこが十分に機能していなかったんじゃないかなというふうに思います。

市長、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まずは、抗原検査キットについて、消費期限が来たということで廃棄処分をしたと、うまく活用できなかったところについては率直におわびを申し上げます。

こういうことが二度とないように、ワクチンも同じです、抗原検査キットもやはり同じです、そこはしっかり意識を持って、活用していきたいと思っています。

市としては、今後の活用についてですけれども、やはり災害時や、あるいは感染がすごく拡大したような緊急時のときに市内で確実に検査ができる体制をつくる、そこに使うというのが、私はまず一つあると思います。

そして、もう一つは、やはり感染拡大の防止と経済社会活動の両立が、今、求められている中で、社会維持活動、いわゆるエッセンシャルワーカーといわれる方が、さっきおっしゃったように、本当に検査を頻繁にして、感染拡大を防止していただいています。

そういった社会生活の維持に関わる場所に関して確実に検査ができるような環境にも活用していくというのが、この2本が、私はまず大事だと思っています。

中の部分も、そういう意識で、やはり目的をしっかり持って、横の連携をこれまで以上に取って進めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

繰り返しになりますけれども、どこでも一生懸命、検査体制が確保できるようにと、自分たちで動きながらされていますし、どの業種でもそうですけれども、例えば、介護関係で言っていますけれども、介護も通所、通いの部分があったりするんですけども、コロナ禍において、やはり通所を控える、また、濃厚接触で出てこれないとかということで、利用者が大幅に減少しているのがどこでも現状としてあります。施設によっては年間1,000万ダウンしているというふうなところも聞いています。

そういう中でも、検査体制を確保するためにという部分で、先ほど言ったように、コスト

の面からどうしても研究用に使われてしまっている。国のほうは、もう研究用というのは判断にしないでくださいとあってあるんだけど、そういうふうなところもあったりするわけですよ。

備蓄ということを念頭に、どうしても軸に置いてしまうと、そこを強く置いてしまうと、結局、また同じように残ってしまう、廃棄処分になってしまうんじゃないかなと、そういうふうに思います。

そうならないように、戦略を持って活用をしていただけるようにというふうに思います。

改めてもう一度、小松市長、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほど申し上げました大きく2本の柱に基づいて、そこはしっかりと庁内連携をして、とにかく目的のためにそこは全庁でどう取り組んでいくかと、そういう考えで、今後、対策本部会議はじめ、進めてまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

もちろん、武雄市としても、市民の、住民の皆さんの命を守るためにと、ワクチン接種に関しても、関係の職員の皆さん、そして、各部の職員の皆さんも動かれています。

そこで、先ほど言われたように、横の連携というのをしっかり取りながら、武雄市として安心・安全な形でいけるように引っ張っていただきたいと思います。

それでは、最後の項目です。

まちづくり・地方創生臨時交付金の活用についてということで入ります。

スライドに出しましたけれども、私も繰り返し一般質問をしてきました。

新幹線開業というのが控える中で、例えば旧市役所跡地、今、駐車場になっているところ、それとか、松原の交差点のところにあるまちなか広場、さぎの森、また、高架下とかそういったところもあります。

いつだったですかね、前回、6月議会で、私がかこの活用について、もういい加減方向性を示さないといけないんじゃないですかということを質問したときに、庭木部長から、「方向性については早ければ夏にでも出したいというふうに考えています」と答弁がありました。

もう夏から秋に変わろうとしています。どのように方向性が決まったでしょうか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

旧庁舎跡地などの公共空間活用につきましては、これまでにまちなか公共空間デザイン調査研究業務、また、武雄将来まちなかビジョンなどの業務を行いまして、まちなか空間をどうするべきかを探るため実証実験やヒアリングに取り組んでおり、一体的な活用が重要であるとの提案をなされております。

今後の方向性としていたしましては、旧庁舎跡地、高架下、中央公園、まちなか広場などの公共空間を一体的に活用し、様々な機能を混在させた、いわゆるミクスドユース型として、市民と来訪者をつなぐ拠点を民間活力の活用によって整備したいと考えております。

今年度は、関係団体への意見聴取を行うための検討会や、民間事業者の意見や新たな提案の把握などを行う市場調査を実施いたしまして、令和5年度には整備方針を決定し、開発に着手したいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

ということは、現段階では方向性は決まっていないということですね。

言われましたけれども、実証実験とか調査とか、今までもさんざんされているわけですよ。ここは市として、やはりもう判断して、方向性を出してくべきじゃないかなというふうに思います。

もう新幹線は開業します。先ほど言いました、冒頭で言いました、私言いました、刷新です。武雄市が、新幹線開業も含めて、こう変わったんだというのを見せていかなければいけないですよ。

一日でも早く方向性を示さないと、民間企業は、武雄がどう動こうとしているのか、それによってどう投資をしようかと考えているわけです。投資も判断できないような状況では、武雄市は活性化していかないわけですよ。一日も早く方向性を示していただきたいと思えます。

小松市長の答弁をお願いします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今、駅前整備を進めていますけれども、その次の、言わば第2期として、ここを整備する必要があるということでもあります。

この方向性については先ほどもちょっと触れましたけれども、いわゆる温泉、駅、市役所、そして、文化ゾーンを考えたときに、そのちょうど真ん中にあるということで、言わばここが、鉄道の方ではなくて、車で来られる方もいらっしゃいますので、車で来られたとき

に、言わば心臓のポンプのようなイメージだと思います。ここに来られて、ここから回遊が始まるということで、言わば回遊の拠点の場所としていきたいと、先ほども話がありました。

ここについて、今後の作業ですけれども、とにかく今年度、その可能性の調査をできるだけ早く進めて、整備方針、そして、開発着手というところをもう、とにかく一日も早く進めていきたいと思っています。

完成については、例えば大村とかも2年後、長崎も3年後とかありますけれども、恐らく市民の皆さんが求められているのは、すぐ完成するとは、それは思っていないと。ただ、いっどうなるのかというところを示してくれということだと思います。

そこについては、とにかく作業を急いで進めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

私がリーダーに求めるのは、そこはリーダーとして引っ張っていただきたい、そう思います。

もう一点なんですけれども、先ほども言いました、さぎの森のところ、ここも前に質問しましたけれども、これは令和4年度の期間は、用途区域関係で動かせないところだったと思います。

前に質問をしたときも、じゃあ令和5年度になってから協議をするんじゃなくて、今の段階からどう活用できるかって、もう協議は今の段階で始めていいんじゃないでしょうかということを行いました。

ここについてどのように協議されているか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

さぎの森につきましても、先ほど申しましたとおり、一体的な分で今後検討してまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

私、また次質問します。もう今、確約します。

次も同じような答弁じゃあ、市長、年末、市長選ですよね、リーダーがどうあるべきかと求められますよ。私は、しっかりリーダーとして引っ張っていただきたいというふうに思います。

次は、デジタルの活用について質問します。

6月議会でもデジタル化について質問しました。市長からは、デジタル化による社会課題の解決だけではなく、地域のデジタル雇用の創出と、それが移住・定住にもつながってくると答弁ありました。

その中で、社会課題の解決についてという分で伺いますが、社会課題とデジタル化というのを重ねて考える場合に、やっぱり職員さんも一人一人、捉え方、考え方、視点も違ったりすると思います。

実際に、武雄市として、このデジタル化に関する社会問題の解決という部分に関して、どのような点をポイントとして考えているのか、答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現在、地域課題の掘り起こしと、その解決にデジタル技術を生かすことができるかにつきまして、連携協定を結んでおりますソフトウェア協会をはじめ、その他民間事業者とも幅広く議論を行っております。

地域の課題は、地域からの声を聞くことが大事なポイントだと考えております。このことを踏まえ、10月に、市内で活用されているまちづくり団体の方々と交えたディスカッションを計画しております。

地域の声から新たな課題が浮かび上がることも予想しており、そういった波及効果を期待しております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

このデジタル化といったときに、どうしても、いや、高齢者はなかなかそういった部分には慣れていなくてというふうなところがあると思います。これは専門家から言わせると、そうした不便を感じている方にこそデジタル化を活用する、そういう考えでいく、そのことが大事であるというのがありました。

そういったところはポイントとして捉えていただきたいと思いますし、また、その専門家の方の講演を聞いて意見交換もちょっとしたんですけども、どうやって進めていくか、デジタル化の推進。もちろん、庁内として、市役所としての業務効率化という部分があります。その側面があります。

それと別で、また、市民サービス向けにというところがありますが、どういうふうに進めていくかとなったときに、先ほど言いましたように、それぞれが捉え方、考え方が違う部分もあるので、やはりまず大事なものは研修であるということでした。

私も市の職員さんの職員研修のこれまでの項目を見せていただきました。本当、いろんな

部分で研修されています。このデジタル化関係に関しても研修をされている部分があるんですけども、希望者が研修をされたりというところはありません。

やはり全体として研修、理解するために研修を受けるというのはあるんですが、専門家の方が言われていたのは、まずは管理職、首長さんがもちろんしっかり理解していただく。そして、部課長さんたち、ここ、各部の管理者の人たち、この方たちにもまず理解していただくということがまず大事であるということがありました。それから全職員にという流れが専門家の意見としてありました。

実際に日本リスキングコンソーシアムやGrow With Googleなどで学ぶということもできます。

実際にこの部課長さんたちに対し、デジタル化についての研究が行われたことはあるのでしょうか。

○議長（吉川里己君）

間もなく正午となりますが、一般質問を続けます。

○8番（豊村貴司君）（続）

また、されていなかったら、研修を行ってはどうでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

部課長を対象とした研修会は行っておりません。

しかしながら、地域課題の掘り起こしや業務遂行の中で生じる課題につきましては、全ての部局において把握していくことは重要だと考えております。

部課長のほか、職員研修を重ねながら理解を深めてまいりたいと存じます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

部課長ほか進めていきたいということで、されると思います。今後されたかどうかというのも確認していきます。

というのも、デジタル化というのは当たり前のようにもう今の世の中あるわけですよ。市役所においても、そこはもう当たり前のように、もちろんなってくる部分があるはずですよ。

次にですけれども、そのデジタル化と移住・定住ということを考えたときに、それぞれ自治体、今日も毛利議員のほうから人口の増減のことがありましたけれども、人口減少にどう立ち向かうか、そのことは最も重要なところであります。

その対策の一つとして、今、移住・定住というところもあります。この移住・定住というのも、やはりデジタルの活用というのは十分考えられるところだと思います。

実際に今、皆さん、インターネットでいろんなことを調べたりするときに、自然と自分が好みそうな情報が勝手に入ってきたりということ、そういったこともありますよね。そういうのは、もう情報を流す側が分析をしてデータを出してというの也有ります。

実際に、自治体で言えば、佐賀市がプロモーションの動画を作成して、それぞれのアクセスの分析をやった結果、想定以上の視聴数に伸びたというふうなこともデータとして上がっています。ほかにもいろんな自治体でそういったことがあっています。

今回の項目で、地方創生臨時交付金の活用というふうなことも言いましたけれども、武雄市の活用の部分を見たときに、市内事業所への支援、これはもちろん必要などころではあります。市内地域経済の活性というところもあります。

思ったのは、先ほどの移住・定住というのを考えたときに、外部からいかに市内のほうに引き寄せるか。移住ということもありますし、外部の人に武雄の、例えばふるさと納税であるとか特産品とかに目を向けていただく、そういった形にしていく。より狙ったターゲットにダイレクトに情報が行きやすいようにするため、そのためにはデジタルの活用というのが絶対的に今、必要だと思います。

先ほども言いましたけれども、そういった部分は、テレワークとかもありましたしコロナの交付金、地方創生臨時交付金も対象になってくるのではないかなと思います。

それで実際、こういったことに分析とか、デジタル化の分析とかを行っていくには、民間の力がやはり必要になってきます。必要になってきますというか、民間の力を活用したほうが、専門家でもありますので、いいと思います。そのほうが効果もあると思います。

そうなった場合に、予算関係もあると思うんですけども、それは先ほど言った交付金の活用、ここが当たるんじゃないかというのと、実際に移住につながれば、その人の住民税としての税収も上がりますし、市内での消費活動、そういったことによる経済効果というものもあるわけです。ですから、十分にペイできてくると思うんですよ。

実際に、このデジタル化という部分で、この移住・定住というところを結びつけて、武雄市としても後れを取らないで取り組むべきというふうに思います。

この点について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

たけおポータルやふるさと納税サイトなど、インターネット上において武雄市のことをどういう興味を持って情報を得られておられるのか、やはりデジタルを活用し情報収集、それから分析を行いまして、適切に情報発信を行ってまいりたいと存じます。

このことにより、先ほど申されました移住・定住の促進、それから、ふるさと納税における武雄の物産、物品の魅力をお伝えし、ひいては武雄市内産業の活性化にもつながることが

期待できると考えております。

なお、デジタル技術の推進等に当たりましては、趣旨や目的に合った補助金、交付金の活用を検討してまいります。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

分析等を行っていきたいというふうにありましたけれども、私は、先ほども言いましたように、そこは民間の専門に任せたほうが、より効果的にいけると思います。そうしながら取り組んでいただきたいと思います。

小松市長、この点について、デジタルの活用と移住という部分、民間の活用、そういった点について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

デジタル化を進めるときに大事なポイントの一つは、民間同士の連携であったり、あとは官民の協働で取り組んでいくということだと思っています。

やはりデジタルを活用することで、より関心のある方に適切に、効果的に、ターゲットマーケティングということで情報が届くとなると、政策の効果もより上がるというふうにも思います。

先ほどありましたけれども、様々な補助金も活用しながら、ぜひそういった面でのデジタル活用を進めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

もう当たり前のことだと思うんですね。これは別に特別なことじゃないと思うんですよ。こういったことに取り組むのは当たり前のことだと思います。ぜひ進めていていただきたいと思います。

そして、先ほど言葉として、私、年末に市長選もあるというふうなことを言いました。

小松市長が、今後、武雄市の活性のため、刷新に向けて動いていただくと。私は小松市長に期待をしています。応援もしています。だからこそ、より一丸となって頑張っていただきたいと思います。

もう時間となりましたので、私の質問を終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で8番豊村議員の質問を終了いたします。

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩いたします。

休	憩	12時7分
再	開	13時20分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、12番池田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。ただいま議長の許可をいただきましたので、12番、立憲民主党、池田大生の一般質問を始めさせていただきます。

今議会に向けては、思うところはたくさんあります。いろんなことを乗り越えて、頑張っ
てまいりたいと思っております。今日、頑張ろうという思いで、いつものとおり、自分にハ
ッパをかけるつもりで毎朝、占いを見るわけなんですけれども、今日は、テレビでは、口が
軽くなり周囲に迷惑をかけるということで、多くを語らずやっていきたいと思う中、佐賀新
聞の占いでは、公平に扱ってもらい自分に満足、公平に扱ってもらうという占いが出ており
ました。どうか頑張って質問をしていきたいと思います。

今回、大きく3点、「まちづくりの全体像、武雄市の未来像について」、そして、「教育に
ついて」、「市政について」ということで通告をさせていただいております。

まず初めにですね、9月23日に西九州新幹線が開業をいたします。これまで関係各位一
丸となってこの開業を迎えるわけでございます。そして、この開業に向けた取組、そして、
開業後、まちに来てもらうためのいろいろなソフト、ハード含めて事が考えられているよう
ですけれども、やはり課題もたくさんある中、一過性に終わらない、そして、開業だけがゴ
ールではないということも含めたところで、いろいろな取組がされていると思えます。

それを踏まえた上で、今日も出ました、12月に市長選を迎えるわけですが、これまでも常々、
私、武雄市には総合計画がない、長期ビジョンをしっかりと示していただきたいということ
を申し上げてまいりました。それをつくる、つくらないは、今日は申し上げませんが、まち
づくりの全体像がなかなか見えてこない。

武雄市をどういうふうに導いていこうと思われているのか。この開業を迎える、この先で
すね、武雄市のまちづくりをどう導いていかれるのか市長にお尋ねすると同時に、いろん
な施策の中に移住・定住、いろんな策があります。人口増加、人口減少を防ぐための策だと
思いますけれども、これから先に育っていく子供たち、この子供たちの教育の未来像につい
ても教育長に併せてお尋ねをさせていただきます。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ほかのまちでは総合計画がある市町もありまして、例えば笑顔あふれる自然豊かなまちとか、そういうふうなのを目標に掲げている総合計画とかもあるのですが、おっしゃるとおり武雄市には総合計画はありません。その代わり、地方創生の総合戦略、いわゆるスター戦略というのがあります。

スター戦略を平成 27 年につくったときに、私自身の一番大事にしたことがそこにも書いてあるんですけども、市民一人一人の幸せを大事にするということです。ここでのポイントは、「一人一人」というところと、「幸せ」というところが特にポイントだと思います。

じゃあ、幸せって何なのかというときに、要素を5つに分けました。経済的豊かさとか、生きがいとか交流、あとはつながり。それらに資する施策をすれば、自然と幸せにもつながると。その後、水害もありましたので、いわゆる安心・安全というところもそこに入ってくるというふうに思います。

こういった市民一人一人の幸せというところをとにかく目指そうということで、福祉のまちづくり、どんな環境や境遇であっても、自分らしく生きていけるようなまちであったり、水害がありましたので、その水害からの克服、治水対策というところもしっかりと進める、そういったことは、その方針に沿って進めています。

改めて考えると、市民の皆さん、一人一人が、やっぱりこのまちにずっと住みたいと胸を張って言える誇りあるまち、西九州の拠点都市というのがやはりこのまちの目指す姿だと思っています。

まちは人によって成り立つ。そして、多様性があり、いろんな課題も増えている中で、そこを誰かを取り残すのではなくて、一人一人に着目してまちづくりをやっていくというところはこれからも進めていきたい。

先ほど新幹線後というふうに言われました。新幹線でいつも言っていますけれども、例えば、通勤通学圏が大きく広がります。今までは、学校になるともう外に出て行ってしまった、仕事が転勤になると外に住まなければならない人が、引き続きこの武雄に住み続けることが可能になると。そして、それをてこに移住も促していく。住んだ人が子育て、教育が充実している、そしてまた、そこで子供が育って、これを機に仕事も増やしていきますので、しっかりと仕事もあるので、そこに残ると。この好循環を私はつくっていくチャンスだと思っています。

市内全体のまちづくりでいうと、私は、アジサイ型のまちづくりと、ここでも以前も言いましたけれども、やはり9町それぞれが歴史、文化、特色を生かしてまちづくりを進めていくと、これが個人の幸せにも一番大きくつながってくると思います。

北方であれば、やはりその強みはインターもありますし、水害を克服して、やはりあそこにさらにいろいろな事業者を集めていくということもあるでしょう。山内だと住環境の豊か

さというところをもっと伸ばしていくとか、そういった9町の強みというのを伸ばしていく、そして、それらをネットワークでつないでいくと、そういったまちづくりを目指していきたいと思っています。

新幹線開業は大きなチャンスで、飛躍のチャンスでもあります。そういった持続可能なまちづくりにしっかりとつなげていけるように、様々な施策を展開していきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘の今後の教育環境の方向性ということでございますが、武雄市は官民一体型学校づくりの推進をはじめとして、他の市町に先行して、プログラミング教育、あるいはデジタル教科書を活用した教育の推進ということで、様々なICT教育の推進に積極的に取り組んだところでございます。

今後も引き続き、ICTを活用した教育やICT機器等の教育環境の整備、充実、また、全ての児童生徒の学習機会が境遇や環境に左右されないよう、ソフト、ハードの両面においてよりよい教育環境の充実に努めていきたいと考えているところでございます。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

西九州の拠点都市として、武雄市の9町のよさを出しながらということですよ。また、その特色を生かしてまちづくりに取り組んでいくと。

やはりこれをですね、仕事を増やしていく、そのための土台、来ていただくための土台をつくるためには、やはりこれまで申し上げてきましたとおり、どこかでお示しをするものが必要ではないかなと私は思っております。

そのためにも力を合わせて、様々な意見を出しながら、一緒になってこの武雄の未来をつくっていくための議論をしっかりとやっていかせていただきたいと私も思っております。

そして、ICTを活用した環境の整備、そして、全ての子供たちが安心して学べる環境整備、これをしっかりとやっていかれるということでした。ソフト、ハードのみならず、しっかりと取り組んでいければと。予算がかかることもたくさんあるかと思いますが、しっかりとそこも予算についても議論をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

それでは、今回、教育について、市政について、通告をさせていただいております。

その中から、まず、教育についてでございます。

学校トイレの洋式化ということで、6月議会で通告をさせていただきました。私の通告の行き違いがございまして、なかなか議論が深まらなかったこと、このことに対してはおわび

を申し上げます。

しかしながら、この学校施設のトイレ洋式化、これまでも松尾初秋副議長はじめ豊村議員さん、そして、多くの議員、先輩議員が洋式化について質問されてこられました。そのことも6月、申し上げました。

改めて、この学校トイレの洋式化については、今議会で質問をさせていただきます。

今、教育の環境整備についてもしっかりやっていくということでもございましたので、今現在、学校施設のトイレ洋式化ですね、洋式トイレの設置の状況、今後の計画については、6月議会では「計画はございません」という答弁でしたが、あれから月日もたっております。いろんな声を聞きながら、またアンケートを取られたりとかですね、そういうことがもしされているのであれば、ただ状況の確認だけで済んでいるのか、それともいろんな話を聞きながら、検討をする余地があったのかどうか、そこまで含めて、設置の状況と今後の計画について改めてお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

まず、学校の施設、洋式トイレの設置状況ですけれども、小中学校合わせて、これも6月の議会で答弁しておりますけれども、平均として52.2%設置されております。ただし、それぞれの学校の設置の洋式化率については、それぞれ児童生徒数の関係上もありますので、設置の状況は違っております。

それと、計画についてですけれども、6月の答弁、議会の答弁と同様に、基本的に大規模改造工事等に併せてトイレの改修、洋式化も実施していくこととしており、現段階では公共施設等個別施設計画、いわゆるアセットマネジメント計画に沿って改修していくこととしております。

それと、6月議会以降、いろいろな学校関係との打合せ等がございましたので、そういう声、それから、保護者等からの声等も聞くように対応していたところでございます。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

保護者の声を聞いて対応をされたと、今、申されましたが、どのような対応をされたんですか。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

保護者の声を聞いて対応をするという形よりも、保護者の中でいろいろな御意見があると

いうことで認識をしているという状態でございます。

その中ではやはり生活様式、特に各家庭における生活様式等も変わってきている状態で、洋式化が進んでいるという状況のお話も聞かせていただいております。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

今、申されたとおり、近年、生活の様式も大分変化をしてくる中に、各家庭、商業施設においても洋式化がかなり進んできております。

設置の状況について、先ほど全体で 52.2%と申されましたよね。基本的に武雄市の計画の学校整備の計画等の中で、学校施設再整備とか、学校の施設整備計画とかで、こういうものの数値化というのをですね、こういうものというか、洋式化を進める上で、トイレの洋式化率がどのくらいが平準化なのか、そういうものは検討されたことはありますか。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

トイレの洋式化の設置率、洋式化については、具体的に目標値というのは設定しておりません。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

施設について数値目標等は定めていないということですよ。

ただ、洋式化率ですね、先ほど生徒数も関係するということをおっしゃいましたが、大体どの程度が、——どの程度というか、率で言えば——平準かなというふうに思われますか。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

まず、洋式化率の適正というのは、その学校の施設の児童生徒数も違いますので、一概に、学校間の洋式化率のみで判断はできないのかなと思っております。

特に洋式便器 1 基当たりの児童の利用数、これも重要なポイントではないかと思っておりますので、その旨考えての計画になると思っております。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

児童生徒、1 基当たりの利用……（「利用」と呼ぶ者あり）利用。（「利用者数」と呼ぶ者

あり)利用者数ですね。

ただ、子供たちは自由にトイレに行く時間があるのか、時間がですね。例えば小規模校なんかは、1学年にあるトイレの数が、その子供たちが休み時間に用を足せるだけの数がそろえてあればいいでしょうが、集中しますよね、休み時間に。私、集中すると思うんですよ。中には我慢する子も出てくるんじゃないかなと。

だから、1基当たりの利用の数は、利用率は、生徒数とは、私、比例しないんじゃないかなと思うんですよね。

先ほど設置率のことを言われました。52.2%、これが平均なんですよ、平均。この50%に満ちていない学校、これがですね、武内小学校。武内小学校は28%、橘小学校31.6%、北方中学校は36.4%、山内東小学校19.4%、山内西小学校、これは令和8年に大規模改造の予定があると聞き及んでおります。ここで、26.5%。

多分、洋式化の要望は出てないですか、お尋ねします。

○議長(吉川里己君)

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

先ほど申しましたように、学校関係と打合わせとかする中ではそういう要望等については出てきておりません。ただし、保護者等の、そういう今の生活の様式等が変わってきている中で、やはりこういうふうな施設整備というのを重大といいますか、その必要性というのは十分私のほうも認識をしているところでございます。

○議長(吉川里己君)

12番池田議員

○12番(池田大生君)〔登壇〕

私はこの洋式化の一つの目的は、洋式化のトイレに変えるだけじゃなくて、トイレは、もう私が言わなくても分かっておられると思いますが、4Kと言われます。4Kですね。汚い、臭い、そして、何やったですかね、暗い、怖いですね。それを解消するためにも、先ほど言われました学習環境の向上、これが一つあるんじゃないかなと思うんですよ。

使用するのは、保護者や教職員とか学校関係者だけじゃないんですよ。主に使うのは子供たちなんですよ。そこをしっかりと考えていただければなという思いなんですけれども。

先日、中止になったと思うんですが、山内西小学校で国スポに向けた何かイベントをする予定でしたよね。体育館も含めた設置率なのか、例えばおもてなしの気持ちを——後でちょっと出しますが、おもてなしの部分をですね。——そういう気持ちを考えていくとすれば、学校関係者のみならず、この新幹線開業に併せて、いろんなイベントを体育館等でやっていくわけなんですよ。そのときに、利用されるとき環境を、ぜひ、そこも考えていただきたい。

そして、トイレ改修による教育環境向上の効果。トイレを我慢することが減り、学習に集中できる、こういう集計結果も出ているわけなんですよ。

51%の子供たちが、「我慢していた」「たまに我慢していた」が51%ほどいるわけなんですよね。その理由が、トイレが汚くて嫌、臭くて嫌、和式のトイレが嫌。これが並んでいるわけなんですよ。

こういう利用する子供たちの声をぜひ聞いていただければなと思いつつ、そして、乾式か湿式か。乾式のトイレですね、床が乾式の場合、湿式の場合、いろんな活用の仕方があると思うんですよね、トイレ改修については。

トイレ改修は洋式化のみならず、そのトイレ全体の環境によって子供たちの健康面、衛生面、生活面の改善ができると、私が調べていく中にこういうアンケートの結果等あったと。

これ前回の質問から、私、調べて、今回も質問させていただいているわけなんですよ。

こういうことを考えて、大規模改修まで待つのか、それとも子供たちの声を聞いて何か手だてを考えていくのか。

冒頭申し上げました、予算がかかることもあります。しかしながら、整備をしていく、これ、私、大事なことだと思うんですが、これでも、私は、学習環境の向上、これを申し上げていただいたので、ぜひつなげていただければなという思いから質問をさせていただいていますが、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

議員おっしゃるように、この学校施設を使っている主役はやはり子供たちになります。私としても、今、基本的に、先ほども申しましたように、大規模改造工事等に併せてと申しましたけれども、現在の生活様式も多数変わってきている状況でございますので、今後、将来の児童生徒数も見据えながら、それぞれの学校規模に合わせたトイレの整備、洋式化など、環境改善を計画的に進めたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

ここに出しているとおり、いろんな効果も、ない部分もあるかも分かりません。しかし、効果があることも分かっています。そして、学校施設、昨今ですね、先ほど申し上げました、学校として学習、そして、スポーツ、そして、イベントのみならず、避難所として活用されることも出てまいりました。

コロナ感染症対策の一環で距離を取る、そういうときに学校施設も——北方中学校なんかすぐですもんね。去年の水害のときも避難所になりましたよね。やはりそういう利用もされ

てくる。そういう中で環境をしっかりと整備していただくことをお願い申し上げまして、次に、いろんな多様性のある使い方をされているということもしっかりと考えていただきたいと思います。

次に、市政についてお尋ねをいたします。

新幹線開業が、冒頭申し上げました9月23日を迎えるわけですが、これまでも新幹線がゴールじゃないという、私もゴールと思っていません。開業することによっていろんな効果を生んでいくんだろうと、生まなくてはいけない、そのつもりでおりますけれども。

これまでは目に見えるものは、この駅の周辺整備とか、周辺の再開発とかですね、再開発じゃない、どういう言い方したらいいのかな、再生整備計画事業とか、そういうものの中でやってこられましたけれども、開業後ですね、冒頭申したとおり、これが一過性のものに、開業で終わるんじゃないで、その後、9町を拠点とした、つないでいくための点と点を結んでいく、線にするための施策もぜひ必要だと思っております。

これまでは、駅周辺の計画等は文書でありましたが、冒頭申し上げたとおり、長期計画がない中に、この駅周辺における、この新幹線、駅周辺のみならず、開業後のまちづくりについてお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

これまで、西九州新幹線開業を武雄市にとりまして最大のチャンスと捉え、駅周辺をはじめとした整備はもちろん、新幹線活用プロジェクトによる行動計画を策定いたしまして、おもてなしの態度強化、また、駅から市全域へのアクセス向上、各町観光資源の磨き上げなどを開業準備に取り組んできたところでございます。

先ほど議員が申されましたとおり、私どもも開業というのがゴールということではなく、引き続き市民の皆様、また、官と民が一体となって、一緒になって新幹線を活用したまちづくりにしっかりと取り組む必要があると考えております。

特に、交通の利便性の向上を生かしまして、西九州のハブ都市として、さらなる移住・定住の促進、また、周辺市町との連携した観光客の増加につながる施策を考えていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

ちょっと、1点だけ確認させてください。

新幹線活用プロジェクト等と申されましたが、これ、新幹線活用の中に在来線の部分は入っていますかね。

大丈夫です。すみません、ちょっと多分、そこ通告していなかったんで、活用プロジェクトの中身について聞きますよということは言っていなかったんで、多分、準備が間に合わなかったんだろうなと思いますので。

ちょっと時間の都合上、先に進めさせていただきます。

これまでですね、今後、開業後、都市再生整備計画事業等、進んでいくと思いますけれども、川端通りの高架下の活用等、こういうものがどのような形で進んでいくのか。中には社会資本整備計画とか、いろいろ、社会資本総合整備計画というものが武雄市で出されていると思うんですが、こういうものをどこかでお示しすることはされますか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現段階では、お示しする時期については明言できません。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

お示しすることができないというのは、見せられる、見せる段階にないということですかね、それとも、私が確認した分ですね、令和3年の1月時点で多分、佐賀県武雄市として出されているんじゃないのかなと思いますけれども、いかがですか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

今後、計画を進めてまいりたいと考えます。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

事業をするに当たって、その計画等は出されていると思うんですよね。それを、我々も開業後にどんなまちづくりを示していただけるのかっていうものを、やはり今後、示してもらう必要がある。

もう、これ計画として、交付税措置か何かの中で出されているはずなんですよね。都市再生整備計画の目標及び計画期間、課題等も書いてありますよ。「武雄温泉駅と周辺拠点エリアとの連携を図り、さらに拠点を結ぶ主要導線の快適性・回遊性を向上させることで、にぎわいの創出につなげることが必要である」とかですね、こういうものをしっかり明確に、今後、ぜひ出していただきたいと思います。

そして、開業するに当たって、先ほどトイレの話をさせていただきましたけれども、武雄

市の今現状——これ開業の分ですね、ちょっと、忘れておりました。現在、武雄市における公衆トイレですね。観光トイレと、公衆トイレがひとつくりになるのか、それが今現在、管理と整備状況がどうなっているのか、また、トイレトーパー等の設置状況についてどうなっているのかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

武雄市の観光施設にあるトイレでございますが、合計で9か所ございます。これにつきましては、現在、施設の管理者、また、清掃委託事業者によって週に3回から、多いところで1日に2回清掃を行っているところでございます。

先ほど御質問ありました、トイレトーパーの交換でございますが、各清掃時に確認をし、随時補充を行っている状況です。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

委託事業者に委託しながら、清掃等も管理はしっかり行っている。

先ほども学校トイレの中で申し上げましたが、環境ですね、今後のその環境整備も新幹線開業に当たって、来てもらうための大事な一つの要素じゃないかなと思っております。

特に、全9か所、観光トイレとか、ここが公衆トイレ、ここは観光だとか、そのすみ分けというのは多分難しいのかなと。ここは観光トイレですよというのはないのかなという気もしますけれども、そういうところの整備をしっかりとやっていくこと、そして、今、インバウンドは少なくなっておりますけれども、外国人の方にアンケートを取った場合、やはり使い方が分からないとか、和式の場合ですよ、そういうのもありますので、やはり、ここもしっかりと目を向けていただいて、観光誘致のための一躍になればいいなど。そしてまた、高齢者の方も、立ち上がるのが大変とって、膝が痛いとかですね、そういう方もいらっしゃいますので、ぜひこれをしっかりと見ていただいて。

トイレトーパーについては、全箇所、設置はされているということでもいいんですかね。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

トイレトーパーにつきましては、先ほど言いました箇所につきまして、管理をしております。随時交換等も行っております。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

場所によっては、武雄市じゃないですよ、トイレのマナーの問題かも分かりませんが、トイレットペーパーが設置していないトイレとかも、たまによそに行ったときとか結構あるもんですから、そのときは、私も経験がありますが、入ってまた出て行って、ちょっと紙を取りに行ったりとか、うーって言いながらこう行くんですが、そういうことが、おもてなしの気持ちから、ぜひチェックをかけていただいて、大変なことかも分かりません。しかし、武雄に来てもらうための、おもてなしの気持ちをしっかりとつくっていただきたいということで。

また、観光地においては、ネーミングライツを活用したり、今回この件についてお尋ねはいたしません、そういう研究もされているところもあります。

長野県においては、名前自体を、「まごころトイレ」とか、そういう名前を使いながら、やはり清潔に保つための意識を根づかせる、市民にも根づかせる、観光客の皆さんにもそういう意識を持ってもらうための施策があります。そういうものも、ぜひ我々も研究していきますので。また、和歌山県においては、おもてなしトイレ大作戦とか。

トイレだけでも、学校トイレのみならず、トイレだけでもいろんな話を出させていただきましたけれども、ぜひ、おもてなしのトイレ、新幹線開業、やっていただきたいと思いながら、そして、在来線、既存駅のトイレですね、皆さんも御存じだと思います。新幹線の駅舎は、確かに立派なものことができました。

私、北方の駅のトイレ、2月でしたっけ、閉鎖したのが。子供たち、通勤通学で使っている中に閉鎖をされ、そして、降りてこられる方が、近くにコンビニもない、そして、歩いて行ける公衆トイレもない、そういう状況の中トイレが閉鎖をされました。

そして、この市役所に来る間、高橋駅のところを通ります。コンパネが貼り付けてあります。どうかと、新幹線だけなのかなという思いを持ちながら、既存、在来線の、そして、三間坂駅、手前は永尾駅やったですね、永尾駅、三間坂駅、これから先、新幹線のみならず、しっかりと在来線も大事にしていかないと、武雄の通勤通学、先ほど言われました定住・移住、これを増やしていくためには、新幹線の駅舎のみならず既存駅にも目を向けていただきたい、そう思っておりますけれども、このトイレの現在の状況は理解をされておられますか、お尋ねします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

議員言われますとおり、高橋駅と北方駅につきましては、今年2月末をもって廃止になっております。永尾駅につきましては、定かでございますが、7年ほど前には既に廃止になったかというふうにお聞きしております。

この件につきまして、JRのほうから昨年10月に廃止の連絡が入っております。市といたしましては、何度も継続をお願いする旨、要望をしまいましたが、経費削減を理由に廃止が決定されております。

また、廃止をする場合には、地域住民へ丁寧な説明をするようにJRのほうにも求めましたが、私としてみれば十分な対応をしていただいたとは言えない状況だと考えております。

駅トイレはJRの財産であるため、指定管理することは今のところは考えておりません。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

鳥栖でも同じような問題があって、無人駅等のトイレが閉鎖をされました。住民要望があって利用は再開されたんですが、先ほど部長が言われたように、JRのほうから——私、一方的だと思うんですね。新幹線を盛り上げてくれ、じゃあ——まあ営利企業だというのは分かりますよ。しかし、採算が取れない、経費がかかるころは何か廃止をしていく。

ここで最終的に市が決断されたのは、市で管理をするということなんですけれども、私はまず、JRさんのほうにしっかりとこの見直しをしていただいて再開していただく、利用者の方が困っておられますよという協議をぜひしていただきたいと思いますが、これをしっかりとつなげていく。

何でもかんでもなくなったら市でやってくれと、これは私は違うかなと。やはり先ほど言われました民間の施設の中のトイレについてしっかりと利用者目線で考えていただきたいということをお伝えしていただきたいんですが、この件についてもトイレの協議をぜひお願いいたします。いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

先ほど申しましたとおり、所有がJRですので、まず、管理は市のほうでは難しいと考えております。

その後、JRのほうにはしっかりと要望のほうを、再開を目指していただきたいという要望を続けてまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

言うたけんちゃいっしょくさんてという声ですが、言わなければ始まりません。言わなければ始まりません。声を出さないと動きません。その思いで、何でもかんでも市でしてくるって言うと、もうちょっと、やはり協力しながら、知恵を出しながら、それも大事な一つ

だと思っております。

そして、内水被害対策、今日も出ましたけれども、これ繰り返し繰り返し、何回も何回も言っていくことが、この内水被害対策どうなっているのか、どうか、これを豊村議員さんのほうがしっかりこう聞いておられましたので、この激特事業の概要も、もう毎回毎回出していきます。そして、流域治水プロジェクトですね。

この中で検討されてきたもの、この事業ですね、これ多分、施設案で終わっているはずなんです。これが進んでいるのか、進んでいないのか。そして、新たな治水対策、田んぼダムで何万トンの水が保留できるのか、これで十分なのか、この点も含めて内水対策、どう進んでいるのか、再度、お尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現在進行している分につきましては、午前中、豊村議員のほうにもお答えした状況でございます。

先ほど池田議員から御紹介いただきました大規模施設の案につきましては、前回は答弁したとおり、まずは早期に効果が期待できる分につきましては、六角川流域治水プロジェクトの推進に全力で取り組むという認識がなされております。

それから、それ以降の今後につきましては、新・創造的復興プランのほうにも上げています。これにつきましても、短期、中期、長期で見えておりますので、今後、それについても少しずつでも前のほうに進めてまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

田んぼダムについては豊村議員さんのほうでやり取りをされていたので繰り返しお尋ねはしませんが、この田んぼダムの効果として十分だとお考えですか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

今年から、試験的という言葉は語弊になるかも分かりませんが、徐々にしておりますが、さらに上流部においてもしっかりと田んぼダムの整備を進めていけば、それなりの効果は出るというふうに認識しております。（発言する者あり）

○議長（吉川里己君）

12 番池田議員

○12 番（池田大生君）〔登壇〕

寸法があっていない、もうまずやってみないとですね、試験的にやっていくことで、それも分かってくるということですよ。

また、十分かということでお尋ねをしました。これもやりながら確保していく。

しかし、我々、北方の住民、高橋の住民、橘の住民、そして、浸水被害に遭われている佐賀県内の方も、ほかのところの方も、これでもか、これでもかという対策をしていただかないと、これで十分だろうじゃなくて、これでもか、これでもかというところを持っていかないと不安なんですよ。

ポンプの運転調整を行いますというこの紙ですね、これがなくなるまで、ぜひ対策をやっ
ていただきたいという思いで、——いろんなことが書かれています。

武雄市の中でも、田んぼダムの整備。これ先ほど言われた短期的なやつだと思っ
てますよ。内水調整地や雨水貯留施設等の整備、雨水貯留施設ですよ。プロジェクト
の中でやっていくと言われましたが、これ何か全然、短期でやれる事業なんかほとん
どないですよ。何かタイムラインをつくってくれとか、自分たちでやることばっか
りですもんね。

6月、言わせていただきました、必要な分だけのパイプラインですね。この袋の部
分を流すことができないかということで、私の考えをお伝えさせていただきました。

そして、武雄市、新・創造的復興プラン、この中に、水がめを造る、これも田んぼ
ダムの一つかなと。そして、貯水機能を備えた公共空間整備、これも6月に言
わせてもらいました。

家庭での雨水貯水槽の設置促進。これですね、今日は映像を出しませんけど、ポ
リタンク等を使ったいろんな、1,000リットルのタンクとかですね、農業で使
うタンクですね、ああいうものをちょっと使えないかなとちょっとふと思ったもの
ですから、そういう研究をぜひ一緒にやらせていただきたいなと思っ
ますが、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

今、議員からも御紹介いただきましたとおり、新・創造的復興プランの中に、水
がめということで、家庭ごとでの貯留タンクを設置する、それ以外に私の中では、
公共施設のほうにも設けるべきだとか、企業の皆様方にも御協力いただきたい。
それから、遊水公園、いろんな方法がありますので、特に家庭の皆様方の貯水
槽につきましては、今後、補助金等の制度設計も含めながら、しっかりと研究
してまいりたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

ぜひ意見交換をしながら、アイデアをですね、100あるうち1個採用できれば、
またさらに進んでいくかなとも思いますので、ぜひお願いをいたします。

そして、最後に、新型コロナウイルス感染症、この件についてお尋ねをいたします。

全数把握については、今回、廃止っちゃうか取りやめ、一時でしょうね、取りやめになっていく中に、自宅療養者等の把握も難しくなってきたのかなと実際思うところなんですよ。

まず最初に、PCR検査で期間が違う場合があるんですよね、判明するまでに。この件について、どう違うの——ちょっと待ってくださいね。PCRの検査の判定が出るまでですね、当日に判明する場合と数日必要な場合があるんですけども、なぜ同じPCR検査で違うのか、これについてお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

議員御指摘のPCR検査の結果判定までの日数に違いがあるという理由につきましては、検査機関が使用している機種の違いによるものであり、従来は検査結果が翌日以降に、外部検査機関に検査を依頼される場合は1日から2日後に判明をいたしておりましたが、現在は30分程度で検査結果が判明する場合がございます。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

2日程度かかる場合もあるし、30分程度で判明する場合もあるということでもいいですかね。

これがですね、今回、この療養証明書、これで相談がありました。30分程度で判明した場合ですね、療養期間が10日間になるんですよ。検査を受けて、自宅待機してくださいねと言われて2日後に判明したら、2日後から療養期間が始まって、同じ——期間はその病院にかかった日から10日間なんですけれども、保険を申請する場合に、療養開始日が2日ずれるわけなんですよ。このことによって、2日間のタイムラグが発生します。

このことについては、非常にですね、何で同じ待機ばせんばとに、2日短こうなっとうやっという声を私聞いたんですけども、そういう声、届いてますか。届いています。やはり同じ声が聞こえ——これですね、私、電話しました、国の制度に従ってやられてると。市政事務に該当しないのかなというところなんですけれども、市に電話がかかってくるんですよ、市に問合せが来るんですよ。そのことによって、事務に手がかかっていく可能性もあるから、私、これを質問させていただいているんですけども。

これですね、抗原検査キットで陽性反応すぐ出ますもんね、抗原検査キットですね。あれでして、PCRで2日後に出たとします。抗原検査で陽性が出ているから、発症日のこの18日から療養期間が始まって、10日間になるんですよ。しかし、コロナに感染して、行かれた方が手をわずらわせてはいけないと、PCR検査だけで大丈夫ですと言われたら、2日後に陽性反応が出た。8日間の療養期間となる。

このタイムラグをしっかりと是正をしていただく、もうそのこともしっかりとやっていかないと、保険を掛けている方ですね、個人としては、個人のセーフティーネットとして掛けているわけなんです。個人事業者の方は休まないといけない。その分の、自分が療養している分の補償がセーフティーネットの分をもらえない、その可能性もあるんですよ。

だから、これも含めてしっかり、これ新型コロナウイルス対策、これは政府の、政府の役割なんです。これをしっかりやってこなかった、これまで向き合ってこなかったツケが、今、出ているんじゃないかと思うんですよ。

地方自治体は一生懸命、事務だけ下りてきて、回されてですね、いろんなワクチン接種もやりますよ。しかし、後手後手に回っている政府のこの新型コロナ対策に、ぜひ声を上げていただきたいと思いますが。

市長ですね、GM21の中でもそういう話、出ていると思うんですよ。全数把握についてもこの間、多分出たと思います。医療機関の負担軽減、そういう声をぜひ、強く、強く政府のほうに届けていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

政府も本当に、状況、状況に応じてやっていると思います。

この前の全数検査についての見直しについては、佐賀県が先行するということですがけれども、市民の人からすると、結構、ころころ、ころころ、いろいろ変わるので、なかなか分かりにくいというところはあると思います。

やはり、市民の人、住民の人にとって、とにかく分かりやすく明快な説明ができるような仕組みというのは必要ですので、それは要望すべきところについては、県、もしくは県を通して国に要望してまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

12番池田議員

○12番（池田大生君）〔登壇〕

武雄市でもですね、佐賀県でも出されておりますが、武雄市でも独自にコロナ対策出しているんですよ。事務も大変なんですよ。

政府にしっかりと、後手後手にならないように、もう後手後手なんですよ、今までが。それをしっかりぜひお伝えいただくことをお願い申し上げて、池田大生の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（吉川里己君）

以上で12番池田議員の質問を終了させていただきます。

〔17番「議長、動議」〕

ただいま 17 番山口議員から動議の申入れが出されました。

この動議に賛成の方、挙手をお願いいたします。

〔17 番「まだ中身は言うたらん」〕

〔18 番「賛同してから」〕

〔17 番「賛同したほうがええの」〕

〔19 番「暫時休憩して」〕（発言する者あり）

〔17 番「ちょっと暫時休憩ばしてくれん」〕（発言する者あり）

暫時休憩いたします。

休	憩	14時22分
再	開	14時24分

○議長（吉川里己君）

再開いたします。

17 番山口議員

○17 番（山口昌宏君）〔登壇〕

ただいま議長の許可を得ましたので、動議を発議いたします。

賛同者は、私、山口昌宏、牟田議員、-〔発言取消〕-、古川議員、豊村議員、-〔発言取消〕-は取り消します。上田議員。

要件は満たしております。

先ほど牟田議員の質問の中で出たサガテレビの葬儀の日という件でございますけれども、これは市長だけではなく、議会としても抗議の議決を日程に追加を発議します。議長の取り計らいをよろしくお願いします。

○議長（吉川里己君）

ただいまの 17 番山口議員の動議につきましては、この後、散会後に議会運営委員会を開催して、日程等の協議をして対応させていただきたいと思っております。

以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散	会	14時26分
---	---	--------

